

HP Project and Portfolio Management Center

ソフトウェアバージョン: 9.10

Operational Reporting ユーザーガイド

ドキュメントリリース日: 2010年9月 (英語版)

ソフトウェアリリース日: 2010年9月 (英語版)



ご注意

保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付属する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 1997-2010 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Intel®, Intel® Itanium®, Intel® Xeon®, および Pentium® は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java™ は、Sun Microsystems, Inc. の米国商標です。

Microsoft®, Windows®, Windows® XP, および Windows Vista® は、Microsoft Corporation の米国登録商標です。

Oracle® は、Oracle Corporation とその子会社の登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最近更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかのご確認には、次のサイトをご利用ください。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、最新版をご入手いただけます。詳細については、HPの営業担当にお問い合わせください。

バージョン番号が9.10である理由

PPM Centerは、HP BTO Operationsバージョン9ポートフォリオに組み込まれています。このバージョン番号を使用するのは、PPM Centerのバージョンと、同時期にリリースされる他の製品のバージョンを揃えるためです。PPM Center 9.10はPPM Center 8.0xをベースとしており、このバージョンの製品ファミリーを拡張した製品となっています。HP BTO Operationsバージョン9ポートフォリオ内でリリースされる製品では、共有のテクノロジー、共通のプラットフォーム、統合、ソリューション、アップグレードツール、プロフェッショナルサービスが提供されます。

サポート

次のHPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。

<http://support.openview.hp.com/>

HPソフトウェアサポートオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。HPソフトウェアサポートWebサイトのサポート範囲は次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポートケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。

アクセスレベルに関する詳細は、次のWebサイトを参照してください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

HP PassportのIDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

目次

1	概要	9
	このドキュメントの対象読者	9
	関連ドキュメント	10
	PPM Center ドキュメントへのアクセス	10
	HP提供によるレポート	11
2	HP Resource Managementのレポート	13
	Demand Vs Capacity Report (デマンドVsキャパシティレポート)	13
	レポートデータのグループ化	14
	Demand Vs Capacity Reportのデータに影響する地域カレンダー	15
	Demand Vs Capacity Reportの実行	16
	Demand Vs Capacity Reportの結果	20
	HP Resource Managementのアドホックレポート	22
	HP Resource Managementのアドホックレポートのコンテキスト	22
	HP Resource Management データに関するレポートのベストプラクティス	24
	複数のビジネス目標を含むプログラムにおけるビジネス目標ごとのプログラムメジャーのグループ化	24
	リソースプールに複数のマネージャが含まれる場合のリソースプールメジャーのクエリ	24
	データ計算に対するカレンダー設定変更の影響	24
	複数のマネージャを含むプロジェクトのクエリ	25
	デマンド、キャパシティ、および工数データのFTE単位での表示	25
	リソースマネージャ階層に最上位レベルマネージャが含まれない場合の リソースに関するレポート	25
	大規模データベースに対するクエリ	26
	リソースの過剰割り当ての計算	26
	ポジションのロールとそのポジションにアサインされたリソースのロールの比較	26
	HP Resource Managementのアドホックレポートの作成	27
	HP Resource Management データに関するアドホックレポートの作成: 例	28
	プロジェクトにアサインされているリソース	29
	リソースプールのすべてのリソース	33

プロジェクトのベースラインデマンドとアクティブなスタッフィングプロファイルデマンドの比較...	34
デマンド、キャパシティ、および実績工数のレポート(プライマリ組織単位ごとにグループ化).....	36
合計デマンドとキャパシティの比較(追加のリソースプールデータ付き).....	37
地域ごとのリソースプール.....	38
リソースカテゴリごとのすべてのリソース.....	39
スタッフィングプロファイルごとのリソースおよびロールに関するすべてのアサイン (すべての工数を表示).....	40
リソースのスタッフィングプロファイルの詳細.....	41
3 HP Time Managementのレポート	43
Time Sheet Compliance Report (タイムシートコンプライアンスレポート).....	43
タイムシートコンプライアンスレポートクエリの情報.....	44
Time Sheet Compliance Reportの結果.....	48
[Direct Manager] タブ.....	48
[Org Unit] タブ.....	50
[Resource Pool] タブ.....	51
HP Time Managementのアドホックレポート.....	53
HP Time Managementのアドホックレポートのコンテキスト.....	53
HP Time Managementデータに関するレポートのベストプラクティス.....	55
複数の作業項目タイプに関するレポート.....	55
メジャーを要約した結果の不正確なデータ表示の回避.....	55
コンプライアンスメジャーに関するレポート.....	56
ロールおよび地域.....	56
値およびパーセントの集計.....	56
フィルタを使用したレポート出力の制限.....	56
ポジションのロールとそのポジションにアサインされたリソースのロールの比較.....	56
大規模データベースに対するクエリ.....	57
HP Time Managementのアドホックレポートの作成.....	58
HP Time Managementデータに関するアドホックレポートの例.....	58
未済タイムシート.....	58
HP Time Managementデータに関する追加のアドホックレポート.....	64
遅延タイムシート送信のトレンド.....	64
タイムシート処理のトレンド.....	65
プロジェクトに記録された請求可能時間のトラッキング.....	66
リソースの進行中作業.....	67
HP Time Managementレポートのクエリを作成する際に考慮する必要のある問題.....	68

4	HP Financial Managementのレポート	69
	Financial Summary Report (財務サマリレポート)	69
	Financial Summary Reportのプロンプト	70
	HP Financial Managementのアドホックレポート	72
	HP Financial Managementのアドホックレポートのコンテキスト	72
	HP Financial Managementデータに関するレポートのベストプラクティス	75
	プログラムが複数のビジネス目標を含む場合のビジネス目標ごとのプログラムメジャーのグループ化	75
	大規模データベースに対するクエリ	75
	Financial Summary Reportでの年次粒度の選択	75
	プログラムの財務サマリの無効化	76
	ポジションのロールとそのポジションにアサインされたリソースのロールの比較	76
	HP Financial Managementのアドホックレポートの作成: プログラムごとの 資産、提案、およびプロジェクト	77
5	アドホック運用レポートへのカスタマイズされたPPM Centerデータフィールドの追加	79
	本章の概要	79
	運用レポートへのユーザデータフィールドの追加	79
	ユーザデータフィールドを表すためのユーザデータオブジェクトの編集	80
	ユーザデータフィールドを含めるためのアドホックレポートの編集	82
	運用レポートの保存および共有	83
	Excel スプレッドシートとしてレポートを保存する際の制限事項	84
	回避策	84
	索引	85

1 概要

HP Project and Portfolio Management Center (PPM Center) の Operational Reporting 機能によって、PPM Center のデータに関してリッチな対話型レポートを作成できます。この機能を使用することで、週次レポートの配布、カスタマへのパーソナライズされたサービスの提供、または企業ポータルへのビジネスクリティカル情報の統合が可能になります。

このドキュメントでは、BusinessObjects の Web デスクトップツールである InfoView を使用して HP Resource Management、HP Time Management、HP Financial Management のデータに関して運用レポートを生成する方法について説明します。以下の章では、HP がその実行方法に関する解決策および手順を提供している事前設定済みの運用レポートと、PPM Center のデータを対象に作成できるいくつかのアドホックレポートについて説明し、アドホックレポート用の Web Intelligence ドキュメントおよび構築クエリを作成する方法の詳細な例を提供します。



PPM Center レポートの新しい開発は、この新規 Operational Reporting プラットフォームに基づいて継続的に拡張される予定です。

このドキュメントの対象読者

このドキュメントは、PPM Center ユーザ (特に、直属マネージャ、リソースマネージャ、プロジェクトマネージャとして作業するユーザ) を対象としています。読者は、すべての PPM Center 製品の機能および SAP BusinessObjects について十分な知識を持っていることが前提となります。

関連ドキュメント

この項では、Operational Reporting ユーザにとって有益な情報を含む HP および SAP BusinessObjects のドキュメントを一覧します。HP では、HP Operational Reporting ソフトウェア CD において、SAP BusinessObjects の関連ガイドを PDF 形式で提供しています。一覧されている HP ドキュメントの入手方法の詳細については、「[PPM Center ドキュメントへのアクセス](#)」(10 ページ)を参照してください。

次のドキュメントには、Operational Reporting ユーザにとって有益な情報が含まれます。

- 『HP Financial Management ユーザーガイド』
- 『HP Resource Management ユーザーガイド』
- 『HP Time Management ユーザーガイド』
- 『HP エンティティ ガイド』 (PPM Center のすべてのポートレット、リクエストタイプ、およびワークフローの説明を含む)
- 『Data Model Guide』
- 『BusinessObjects Enterprise InfoView User's Guide』 (BusinessObjects Enterprise XI 3.1 用)

PPM Center ドキュメントへのアクセス

すべての HP PPM Center ドキュメントを入手するには、HP ソフトウェア製品マニュアル Web サイト (<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>) にアクセスします。この Web サイトにアクセスするには、最初に HP Passport アカウントを設定する必要があります。

HP 提供によるレポート

HPでは、HP Project and Portfolio Management Center (PPM Center) の Operational Reporting 用に次のようなモジュール固有の事前設定済みレポートを提供しています。

- Demand Vs Capacity Report (HP Resource Managementに関するレポート用)
- Time Sheet Compliance Report (HP Time Managementに関するレポート用)
- Financial Summary Report (HP Financial Managementに関するレポート用)

BusinessObjects と InfoView に関する知識が限られている場合でも、これらの HP 提供によるレポートを使用して、わかりやすい明快なデータを生成するレポートクエリを迅速に実行できます。これらの事前設定済みの各レポートは、BusinessObjects の Web デスクトップである InfoView を使用して表示および操作できる Web Intelligence ドキュメントです。

HP 提供による各レポートには、設定済みとして使用するか、データを異なる方法でフィルタするように変更できるプロンプトの関連セットが含まれます。これらのレポートは、典型的な使用事例向けに設計されています。詳細については、後の章を参照してください。

2 HP Resource Managementのレポート

この章では、HP Resource ManagementのOperational Reportingについて説明します。また、HPが提供する事前設定済みのDemand Vs Capacity Reportと、HP Resource Managementデータを対象に作成できる多くのアドホックレポートの一部に関する情報を提供します。

Demand Vs Capacity Report (デマンドVsキャパシティレポート)

HPがOperational Reportingに提供するDemand Vs Capacity Reportは、組織内でのリソース使用を最適化するために、デマンドを確認して事前に管理する目的で設計されています。このレポートでは、PPM Centerのリソースキャパシティ(名前付きおよび名前なしのリソースプールから取得)、デマンド(コミット済み、ソフトブック済み、および未処理のデマンドで分類されたスタッフイングプロファイルから取得)、およびタイムシートから取得された実績工数を参照できます。Demand Vs Capacity Reportを使用して、地域、リソースプールレベル、またはロールごとにデータをグループ化し、さまざまなロールについてデマンドとキャパシティを比較できます。

▶ キャパシティは、スタッフイングプロファイルまたはポジションにはアサインされないため、リソースキャパシティは、スタッフイングプロファイルのコンテキストではなく、リソースプールのコンテキスト内で取得されます。リソースのキャパシティは、リソースをどのポジションにどのように割り当てるのかを知らない可能性のあるリソースプールマネージャによってアサインされます。

Demand Vs Capacity Reportに示される実績工数は、タイムシートに記録されたキャンセル済みの時間を除き、リソースがタイムシートに記録したすべての

時間を反映します。タスクに対して記録された時間が却下された場合、その実績工数はレポートから除外されます。



PPM CenterのTM-PM同期サービスは、タイムシートの実績をプロジェクトにロールアップします。PPM Centerシステムでこのサービスをスケジュール実行する頻度によっては、Demand Vs Capacity Reportに表示される実績工数がスタッフィングプロファイルの実績と必ずしも一致しない可能性があります。

レポートデータのグループ化

レポートに表示されるデマンド、キャパシティ、および工数の情報は、地域、リソースプール、またはロールに基づいてグループ化できます。選択したグループ化パラメータに基づいて（一度に選択できるグループ化パラメータは1つのみです）、レポートに各グループの総計値が表示されます。

表 2-1に、選択したグループに基づいて、Demand Vs Capacity Reportにデータがどのように表示されるかを示します。

表 2-1. Demand Vs Capacity Reportでのグループに基づくデータ表示

選択グループ	表示データ
ロール	<p>キャパシティは、ロールレベルの合計として表示されます。デマンドは、ロールレベルでスタッフィングプロファイルごとに表示され、各ロールレベルの合計も表示されます。</p> <p>リソースがデマンドを満たすようにポジションにアサインされている場合、次のいずれかが成立します。</p> <ul style="list-style-type: none">● 対応するキャパシティに関連付けられたリソースロールは、このリソースがアサインされているポジションのロールと同じです。つまり、キャパシティロールは、デマンドロールと同じです。● 対応するキャパシティに関連付けられたリソースロールは、このリソースがアサインされているポジションのロールと異なります。つまり、キャパシティロールは、デマンドロールと同じではありません。 <p>いずれの場合でも、Demand Vs Capacity Reportには、リソースのロールに応じてキャパシティが表示され、ポジションのロールに応じてデマンドが表示されます。</p>
リソースプール	<p>キャパシティとデマンドは、両方ともロールレベルでリソースプールごとに表示されます。名前付きと名前なし両方のリソースプールに基づくキャパシティを表示できます。</p>

表 2-1. Demand Vs Capacity Reportでのグループに基づくデータ表示

選択グループ	表示データ
地域	<p>キャパシティとデマンドは、両方ともロールレベルで地域ごとに表示されます。</p> <p>リソースプールのキャパシティは、リソースプールの地域に対して評価され、デマンドは、未処理と処理済み両方のデマンドに関して、スタッフィングプロファイルポジションのリソースプールの地域に対して評価されます。ただし、この原則には例外があり、リソースプールに関連付けられていない未処理のデマンドが存在する場合、レポートでは、スタッフィングプロファイルの地域に対して未処理のデマンドが評価されます。</p> <p>注: スタッフィングプロファイルのポジションに対するデマンドを表示するクエリを含むアドホックのDemand Vs Capacity Reportでは、「Demand from Staffing Profile Region」コンテキストを選択すると、すべてのデマンドがスタッフィングプロファイルの地域に対して評価されます。リソースプールのリソースのキャパシティを表示するクエリを含むアドホックのDemand Vs Capacity Reportでは、すべてのキャパシティがリソースプールの地域に対して評価されます。</p>

Demand Vs Capacity Reportのデータに影響する地域カレンダー

表 2-2に、Demand Vs Capacity Reportのリソースキャパシティを計算する際に使用されるカレンダーを示します。

表 2-2. PPM Center リソースのキャパシティ (時間、人日、およびFTE単位) の計算に使用されるカレンダー

リソース	キャパシティの計算に使用されるカレンダー (時間数または日数)
名前付きリソース	<p>時間数、日数、FTEは、リソースの地域カレンダーおよびリソースの例外に基づいて計算されます。</p> <p>リソースに関連付けられた地域カレンダーから導出される、リソース詳細ページのカレンダーに基づいて計算されます。</p> <p>FTEは、リソースの地域に関連付けられたカレンダーに基づいて計算されます。</p>
名前なしリソース	<p>リソースプールの地域に基づく、リソースプールに関連付けられた地域カレンダー。</p>

表 2-3 に、Demand Vs Capacity Report に表示されるデマンドデータを計算する際に使用されるカレンダーを示します。

表 2-3. PPM Center リソースのデマンド (時間、人日、FTE 単位) の計算に使用されるカレンダー

デマンド	デマンドの計算に使用されるカレンダー (時間数または日数)
処理済みのデマンド (コミット済み/ソフトブック済み)	リソースプールに関連付けられた地域カレンダー
未処理のデマンド	<ul style="list-style-type: none"> リソースプールに関連付けられた未処理のデマンドの場合、リソースプールに関連付けられた地域カレンダー (リソースプールの地域に基づく) リソースプールに関連付けられていない未処理のデマンドの場合、スタッフィングプロファイルに関連付けられた地域カレンダー

Demand Vs Capacity Report の実行

Demand Vs Capacity Report を実行するには、次の手順を実行します。

1. Web ブラウザのウィンドウを開いて、InfoView にログオンします。
2. InfoView のホームページの **[Navigate]** セクションまたはヘッダーパネルで、**[Document List]** をクリックします。



ドキュメントリストに表示されるフォルダおよびオブジェクトは、ユーザがログオンしたアカウント、BusinessObjects Enterprise 管理者によってユーザに付与されている権限、およびユーザとその管理者が有効にしている設定に応じて変化します。

3. ページ左側のツリーパネルで、**[Public Folders]** フォルダを展開し、**[HP Reporting]** > **[Resource Management Reports]** を選択します。

ツリーパネルの右側の詳細パネルに、使用可能なレポートドキュメントが一覧されます。

4. Demand Vs Capacity Report ドキュメントが表示されている行をダブルクリックします。

[Prompts] ダイアログに、レポートクエリで使用可能なプロンプトが一覧されます。値が必要なすべてのプロンプトにデフォルト値が割り当てられ

ていますが、これらの値は変更できます。また、一覧されているオプションプロンプトの一部または全部に値を指定できます。



プロンプト一覧の左側にある緑のチェックマーク (| ✓) は、そのプロンプトが必須であり、値が指定されていることを示します。プロンプト一覧の左側にある赤い矢印 (| →) は、そのプロンプトが必須であり、レポートクエリを実行する前に値を指定する必要があることを示します。

5. データをさらに絞り込むには、レポートを実行する前に、次の表に一覧および説明されているプロンプトに情報を提供します。



プロンプトに値を指定しない場合、レポートデータにフィルタは適用されません。

プロンプト * 必須の値	説明
*Primary Grouping	レポート内でデータを分類する方法を決定します。 次のいずれかの値を選択します。 <ul style="list-style-type: none">● Region● Resource Pool● Role
*Begin Period	レポートにデータを表示する最初の期間を決定します。[Available Periods] リストから値を選択します。
*End Period	レポートにデータを表示する最後の期間を決定します。[Available Periods] リストから値を選択します。

プロンプト * 必須の値	説明
*Time Granularity	<p>レポートに表示されるデータの時間間隔を決定します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [Year] は、期間を yyyy として表示します。 ● [Half Year] は、期間を h1 または h2/yyyy として表示します。 ● [Quarter] は、期間を quarter/yyyy として表示します。 ● [Month] は、期間を mm/yyyy として表示します。 ● [Week] は、期間を mm/dd/yyyy として表示します。 <p>注: 長いレポート期間を指定し、時間粒度として [Week] を選択した場合、生成されたレポートデータを Microsoft Excel にエクスポートすると、出力される Excel ファイルのデータは、フォーマット制限の結果として切り捨てられる可能性があります。この問題を回避する唯一の方法は、Web intelligence ドキュメントをテキストファイルにエクスポートしてから、そのファイルを Excel で開くことです。この場合、ファイルフォーマットは失われます。</p>
*Time Unit	<p>レポートにキャパシティおよびデマンドデータを表示する際に使用する時間単位 (FTE、人日、または時間) を決定します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● FTE ● Person Days ● Hours
Resource Pool	<p>レポートに表示するリソースプールを決定します。[Resource Pool Name] リストから1つまたは複数のリソースプール名を選択します。</p>

プロンプト * 必須の値	説明
Region	レポートにデータを表示する地域を決定します。 [Region] リストから値を選択します。
Role	レポートに表示するロールを決定します。[Role Name] リストから1つまたは複数の値を選択します。
Resource Category	InfoView に、PPM Center のリソースに定義されているすべてのリソースカテゴリが一覧されます。 [Resource Category] リストから、レポートに含める1つまたは複数のリソースカテゴリを選択します。

6. ダイアログの一番上のリストから、プロンプトを選択します。
7. InfoView では、ダイアログの左下にあるボックスに一部のプロンプトで利用できる値が一覧されます。選択したプロンプトに対して値が一覧されない場合は、[Refresh Values] をクリックして値を表示します。
8. オプションのデータフィルタを指定したら、[Run Query] をクリックします。

Web Intelligence によってデフォルト値のデータが取得され、レポートに結果が返されます。

Demand Vs Capacity Reportの結果

表 2-4に、Demand Vs Capacity Reportに表示される列の説明を示します。

表 2-4. Demand Vs Capacity Reportに表示される列

列	説明
Grouping category	レポートに選択されたグループカテゴリを反映します (「*Primary Grouping」 (17 ページ) を参照)。
Time Unit	レポートでキャパシティ、デマンド、および工数を示す際に使用される単位 (時間、人日、FTE) を表示します。
Resource Pool	レポートデータによって示されるリソースプールの名前と、どのリソースプールにもアサインされていないデマンドの [No Resource Pool] 行を表示します。
Role	レポートデータが表示される各リソースプール内のロールを表示します。[Role] プロンプトでフィルタを指定しなかった場合、この列には各リソースプールのすべてのロールが一覧されます。
Time period	レポートデータの期間を示す列見出しが左から右に (最初のレポート期間から始まって最後のレポート期間で終わるように) 表示されます。期間は、「*Time Granularity」 プロンプトで選択した値に基づいてフォーマットされます。
Demand	<p>レポートに示される各リソースプールのロールごとに (およびどのリソースプールにもアサインされていないデマンドに対して)、「*Time Unit」 プロンプトでの選択に基づいて表示される次の列見出しの下に一定期間におけるデマンドの内訳を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none">● Committed - リソースプールのリソースがコミット済みであるデマンドを表示します。● Soft Booked - リソースプールのリソースがソフトブック済みであるデマンドを表示します。● Unmet - 未処理のデマンドを表示します。● Total Demand - 次を表示します。 <p>各リソースプール (およびどのリソースプールにもアサインされていないデマンド) について、これらの列ごとに合計デマンドを表示します。</p>

表 2-4. Demand Vs Capacity Reportに表示される列

列	説明
Capacity	<p>各期間について、次のカテゴリのロール/リソースプールごとに (「*Time Unit」プロンプトで選択した単位に基づいて) キャパシティの内訳を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Named - 名前付きリソースのキャパシティを表示します。 ● Unnamed - 名前なしリソースのキャパシティを表示します。 ● Total Capacity - 名前付きおよび名前なしリソースの合計キャパシティを表示します。
Demand Vs Capacity	<p>各期間について、ロール/リソースプールごとの合計デマンドと合計キャパシティ間に差異がある場合、この列はその差異を表示します。デマンドがキャパシティを超えている場合、値は括弧内に赤いテキストで表示されます。キャパシティがデマンドと等しいか、デマンドを超えている場合、値は黒いテキストで表示されます。</p>
Actual Effort	<p>各期間について、ロール/リソースプールごとに (「*Time Unit」プロンプトで選択した単位に基づいて) 実績工数の内訳を表示します。</p>

HP Resource Managementのアドホックレポート

この項では、HP Resource Managementを対象に作成できる運用レポートについて説明し、それらのレポートのいくつかを作成する方法の例を示します。また、この項には、レポートで使用できるコンテキストに関する情報、アドホックレポートの作成における推奨事項、および運用レポートクエリでのPPM Centerユニバースオブジェクトの使用方法に関するガイドも含まれます。

HP Resource Managementのアドホックレポートのコンテキスト

HP Resource Managementのアドホックレポートを作成する場合、InfoViewによってレポートクエリのコンテキストを選択するよう求められることがあります。コンテキストは、複数のディメンションおよびファクトに関連する一意のクエリパスを作成するための、明確に定義された結合のセットで構成されます。

ディメンションの共通セットにレポートユニバースの複数のファクトおよびメジャーが関連している場合、複数のファクトと関連ディメンション間の結合は、ループに陥ります。ファクトおよび関連ディメンションごとに個別のコンテキストを指定することで、ループを排除し、共通ディメンションのセット全体で複数のファクトをクエリできます。

Operational Reportingでは、HP Resource Managementデータを対象に作成されるアドホックレポートに次のコンテキストが提供されます。

- Resource Capacity

「Resource Capacity」コンテキストを使用すると、任意の会計期間にわたるリソース、リソースプール、ロール、および組織単位全体でキャパシティ情報を取得できます。このコンテキストでは、地域はリソースプールの地域を示し、ロールはリソースのプライマリロールを、組織単位はリソースプールの組織単位を示します。

- Resource Demand on Resource Pool Region

「Resource Demand on Resource Pool Region」コンテキストを使用すると、地域に基づくリソースデマンドを (Demand Vs Capacity reportで事前設定したとおりに) 表示できます。リソースプールにアサインされたデマンドは、リソースプールの地域でのデマンドとして処理されます。リソースプール

に関連付けられていないデマンドは、スタッフィングプロファイルの地域から取得されたものとして処理されます。

このコンテキストでは、地域はリソースプールの地域を示し、ロールはポジションのロールを、組織単位はスタッフィングプロファイルの組織単位を示します。

- **Resource Demand from Staffing Pool Region**

「Resource Demand from Staffing Pool Region」コンテキストを使用すると、ポジション、スタッフィングプロファイル、リソースプール、地域、および会計期間全体でリソースデマンドデータを取得し、デマンドのソースである（スタッフィングプロファイルに関連付けられた）地域を確認できます。

このコンテキストでは、地域はスタッフィングプロファイルに関連付けられた地域を示し、ロールはポジションにアサインされたロールを、組織単位はスタッフィングプロファイルが属する組織単位を示します。

- **Resource Effort**

「Resource Effort」コンテキストを使用すると、さまざまなディメンション全体（ロール、リソースプール、スタッフィングプロファイル、地域など）で工数データを取得できます。

このコンテキストでは、地域はリソースの地域を示し、ロールはタスクのロール（タスクにロールが存在する場合）またはリソースのプライマリロールを、組織単位はリソースのアサイン先のプライマリ組織単位を示します。

- **Resource Pool in a region and its Org Unit**

「Resource Pool in a region and its Org Unit」コンテキストを使用すると、地域のリソースプールと、そのリソースプールが属する組織単位を取得できます。

HP Resource Management データに関するレポートのベストプラクティス

この項では、HP Resource Management データを対象に作成するアドホック運用レポートで最適な結果を得るための推奨事項について説明します。

複数のビジネス目標を含むプログラムにおけるビジネス目標ごとのプログラムメジャーのグループ化

たとえば、ビジネス目標ごとにグループ化されたプログラムメジャー (Forecast、Actuals、Approved など) を含むアドホックレポートクエリを作成し、そのクエリ結果に (FM 派生ユニバースの) Business Objectives クラスから 1 つまたは複数のオブジェクトを含めるとします。複数のビジネス目標を含むプログラムに関してレポートすると、生成されるメジャーのデータに、関連するビジネス目標の数が掛けられます。この操作により、正しくないレポートデータが生成されます。

この問題を回避するには、プログラムにおける個別のビジネス目標の数をカウントするレポート変数を作成します。プログラムメジャーを表示する各アドホックレポートセルでこの変数を使用し、セルの合計をその値で割ります (財務サマリレポートでは、このメカニズムが使用されます)。

リソースプールに複数のマネージャが含まれる場合のリソースプールメジャーのクエリ

たとえば、Resource Pool ディメンションに対して Capacity や Demand などのメジャーを含むクエリを作成し、そのクエリ結果に Resource Pool Manager オブジェクトを含めるとします。複数のマネージャを含むリソースプールに関してレポートすると、生成されるメジャーのデータに、リソースプールマネージャの数が掛けられます。この操作により、正しくないレポートデータが生成されます。

この問題を回避するには、2 つの別個のレポートクエリを作成します。1 つのクエリは、メジャーを含めずに、リソースプールのディメンション (または必要に応じて他のディメンションオブジェクト) に関する情報を取得するように設計します。もう 1 つのクエリは、メジャーを取得するように設計します。

データ計算に対するカレンダー設定変更の影響

カレンダー設定を変更する場合、その変更が関連タイムシートにも反映されない限り、FTE 単位で表示される実績工数データと、影響を受ける時間範囲内の人日データは、自動的に再計算されません。

複数のマネージャを含むプロジェクトのクエリ

プロジェクトマネージャに基づいてプロジェクトをクエリする際に、クエリにフィルタ条件を作成する場合は注意してください。プロジェクトに複数のマネージャがアサインされている場合、そのクエリによって、フィルタに指定されたリソース名に基づいて管理されているすべてのプロジェクトが返されることを確認します(そのリソースが、プロジェクトにアサインされている唯一のマネージャであるか、アサインされている複数のマネージャのうちの1人であるかは問いません)。Project Managerオブジェクトにクエリフィルタを作成する場合、パターン一致操作を選択し、プロジェクトマネージャのリストから選択した名前の最初と最後にパーセント文字(%)を追加します。

デマンド、キャパシティ、および工数データのFTE単位での表示

デマンド、キャパシティ、および工数は、システムカレンダー設定に所定期間の就業日の合計日数がゼロであると示されている場合、フルタイム従業員(FTE)単位で計算できません。たとえば、所定の週のそれぞれの日がシャットダウン期間の非就業日として設定されていると、その週のデマンド、キャパシティ、および工数データは、FTEがゼロとして表示されます。ただし、時間の値は、ゼロにならない可能性があります。この問題が発生するのは、たとえば、シャットダウン期間にリソースが作業した場合です。カレンダーに就業日数がゼロと示されていても、キャパシティまたは工数はゼロにならない可能性があります。

この間違いを回避するには、レポート結果のデマンド、キャパシティ、または工数データにFTEがゼロとして表示された場合に、同じメジャーの値(時間単位)を確認します。ゼロ以外の値は、カレンダー設定に問題があることを示しており、その場合、時間単位で返されているデータの方が信頼できる表示単位です(事前設定されたDemand Vs Capacity Reportでは、このメカニズムを使用して、一定期間の就業日数がゼロであると計算された場合にFTE単位でデマンド、キャパシティ、および工数データを表示するか、または「--」として表示するかを決定します)。

リソースマネージャ階層に最上位レベルマネージャが含まれない場合のリソースに関するレポート

PPM Centerデータベースでは、リソースマネージャ階層が存在するが、最上位レベルマネージャがその階層にアサインされていない場合、ループが発生します。リソースデータを含めるように設計されたレポートの結果から、すべてのリソースが除外されます。この問題の発生を回避するには、最上位レベルマネージャがリソースマネージャ階層にアサインされていることを確認します。

大規模データベースに対するクエリ

デフォルトでは、クエリは実行後10分でタイムアウトします。大容量のデータを取得するクエリフィルタを選択した場合、そのクエリはタイムアウトし、レポート結果が返されない可能性があります。この問題の発生を回避するには、次のいずれか1つ、または両方を実行します。

- [Universe Parameters] ダイアログの [Controls] タブで、実行時間の制限値を増やすようにユニバースパラメータを変更します。
- より小規模なデータセットを取得するようにクエリフィルタを変更します。

リソースの過剰割り当ての計算

リソースの過剰割り当てに関するレポートでは、クエリ結果に **Project Name** オブジェクトだけでなく、**Staffing Profile Name** オブジェクトを含めるようにします。この原則が特に重要となるのは、リソースが複数のスタッフィングプロファイルにアサインされている場合（その一部は独立したスタッフィングプロファイルである可能性もあります）、または組織単位のスタッフィングプロファイルが存在し、それがプロジェクトに関連していない場合です。**Staffing Profile Name** オブジェクトを含めずに **Project Name** オブジェクトのみを追加すると、プロジェクトスタッフィングプロファイル以外のリソースに対するアサインが結果から除外され、過剰割り当てが正確に反映されない可能性があります。

ポジションのロールとそのポジションにアサインされたリソースのロールの比較

ポジションのロールと、そのポジションにアサインされたリソースの実際のロールを比較するクエリを作成する場合、次の操作を実行する必要があります。

- ポジションのロールの **Role Name** オブジェクト (**Roles** クラス) を選択します。
- リソースのロールの **Primary Role** オブジェクト (**Resource** クラス) を選択します。
- 「Resource Demand from Staffing Pool Region」または「Resource Demand on Resource Pool Region」コンテキストを選択します。

HP Resource Managementのアドホックレポートの作成

PPM Centerに付属するRM派生ユニバーズには、HP Resource Managementデータを対象にユーザが独自の運用レポートを作成できるクラスとオブジェクトが含まれます。以下に示すのは、HP Resource Managementデータを対象に作成できるアドホックレポートのごく一部です。

- 「プロジェクトにアサインされているリソース」
- 「リソースプールのすべてのリソース」
- 「プロジェクトのベースラインデマンドとアクティブなスタッフィングプロファイルデマンドの比較」
- 「デマンド、キャパシティ、および実績工数のレポート (プライマリ組織単位ごとにグループ化)」
- 「合計デマンドとキャパシティの比較 (追加のリソースプールデータ付き)」
- 「地域ごとのリソースプール」
- 「リソースカテゴリごとのすべてのリソース」
- 「スタッフィングプロファイルごとのリソースおよびロールに関するすべてのアサイン (すべての工数を表示)」
- 「リソースのスタッフィングプロファイルの詳細」

この項では、これらのレポートのうちの1つを作成する手順と、HP Resource Managementを対象に作成できる他のアドホックレポートについて説明します。

HP Resource Management データに関するアドホックレポートの作成: 例

さまざまなリソースプールのリソースをプロジェクト全体に配布する方法を決定する必要があるリソースプールマネージャは、この情報を提供するレポートを迅速に作成できます。表 2-5 に、このレポートの作成に必要な RM ユニバースオブジェクトと、それらのオブジェクトが存在する [New Web Intelligence Document] ページの場所を示します。

表 2-5. PPM Center のリソースプールのリソースに関するレポートに含める RM ユニバースオブジェクト

オブジェクト クラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/ プロンプト選択モード
Project Information	Project Name	Project Name/Prompt
Resources	Resource Name	
Resource Pools	Resource Pool Name Resource Pool Managers	
Roles	Role Name	

次の例では、このレポートクエリを作成および実行するのに必要な基本手順について説明します。Web Intelligence ドキュメントの作成方法の詳細については、『BusinessObjects Enterprise InfoView User's Guide』を参照してください。

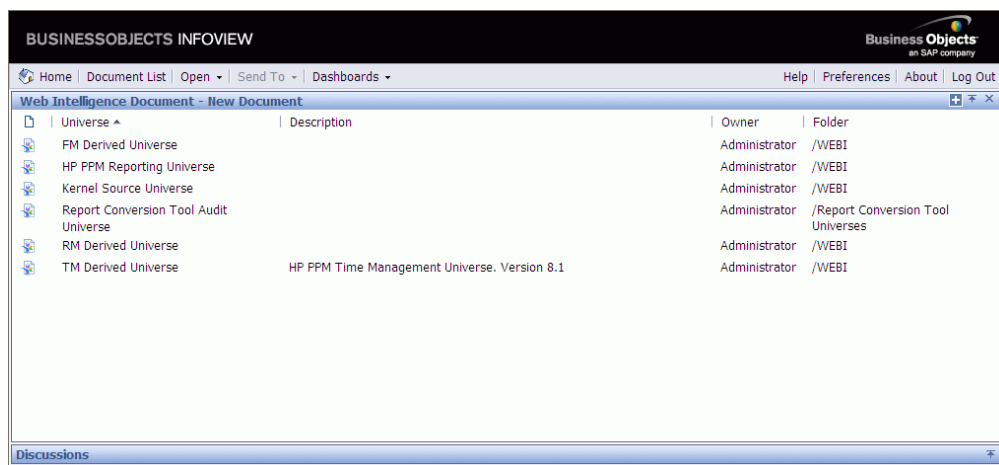
プロジェクトにアサインされているリソース

プロジェクトにアサインされているリソースプールおよびリソースを表示するレポートを作成するには、次の手順を実行します。

1. Webブラウザのウィンドウを開いて、InfoViewにログオンします。
2. InfoViewのホームページの **[Navigate]** セクションで、**[ドキュメントリスト]** をクリックします。

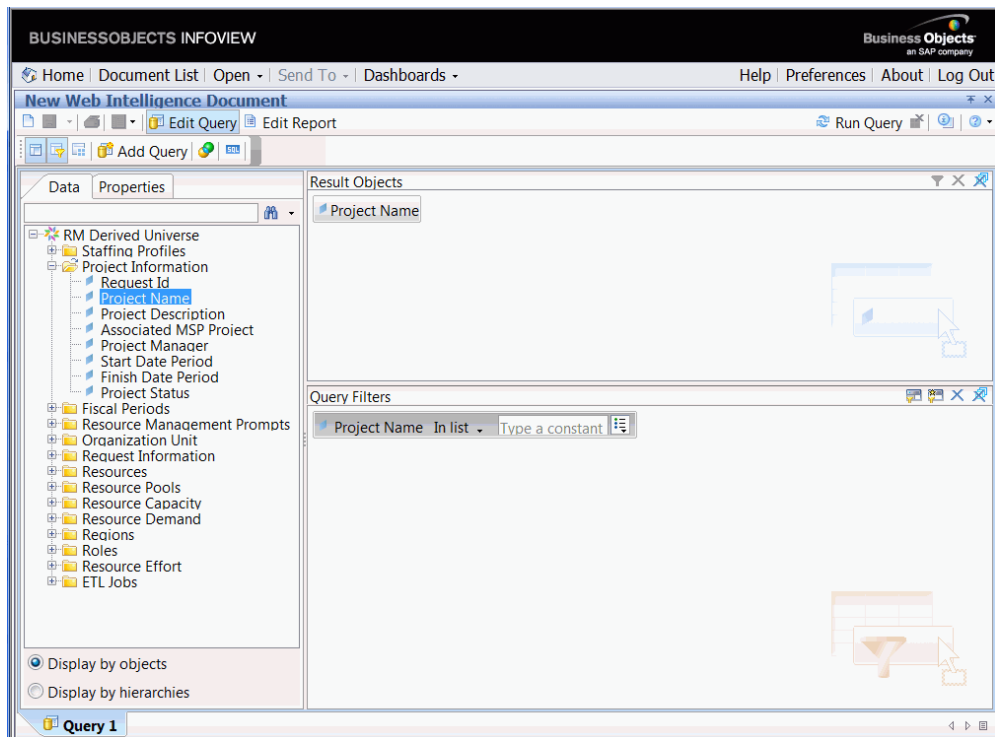
ドキュメントリストに表示されるフォルダおよびオブジェクトは、ユーザがログオンしたアカウント、BusinessObjects Enterprise管理者によってユーザに付与されている権限、およびユーザとその管理者が有効にしている設定に応じて変化します。

3. **[New]** リストで、**[Web Intelligence Document]** を選択します。

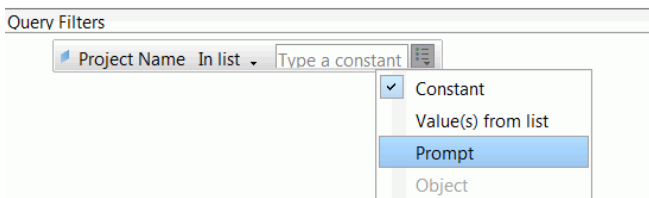


4. 使用可能なユニバースのリストで、**[RM Derived Universe]** を選択します。
左側のペインの **[Data]** タブに、RM派生ユニバースで使用可能なすべてのクラスおよびオブジェクトが一覧されます。
5. **[Project Information]** クラスフォルダを展開します。

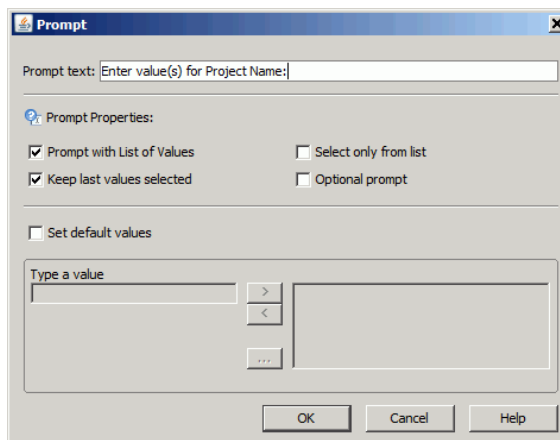
6. **[Project Name]** オブジェクトを右上の **[Result Objects]** セクションにドラッグし、次に **[Project Name]** オブジェクトを右下の **[Query Filters]** セクションにドラッグします。



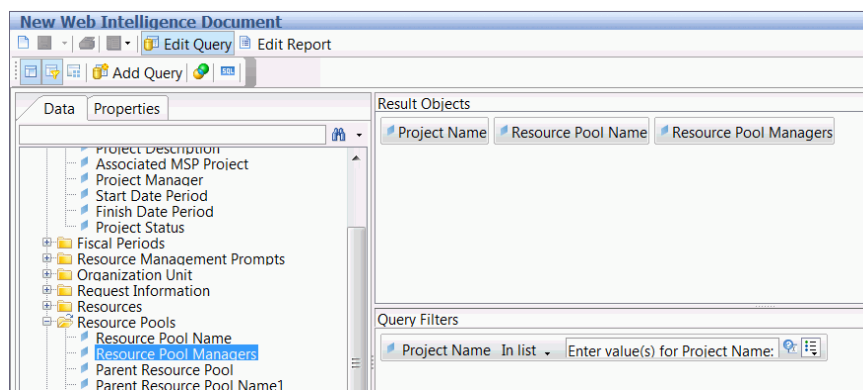
7. **[Query Filters]** パネルで、**[Project Name]** ボックスの右端にあるリストボタン (☰) をクリックし、**[Prompt]** を選択します。



8. [Query Filters] パネルで、[Prompt Properties] ボタン  をクリックします。

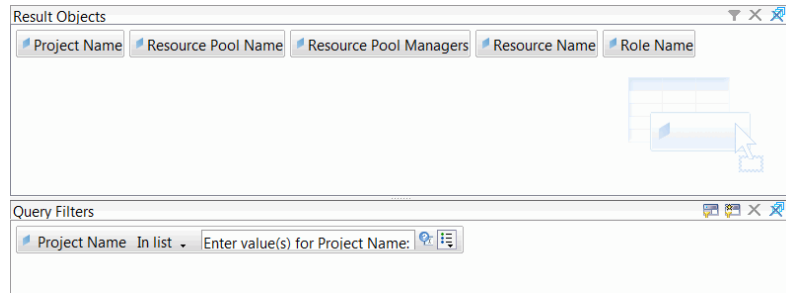


9. [Prompt Properties] セクションで、[Select only from list] および [Optional prompt] チェックボックスを選択します。
10. [OK] をクリックします。
11. [Resource Pools] クラスフォルダを展開し、[Resource Pool Name] および [Resource Pool Managers] オブジェクトを [Result Objects] セクションにドラッグします。



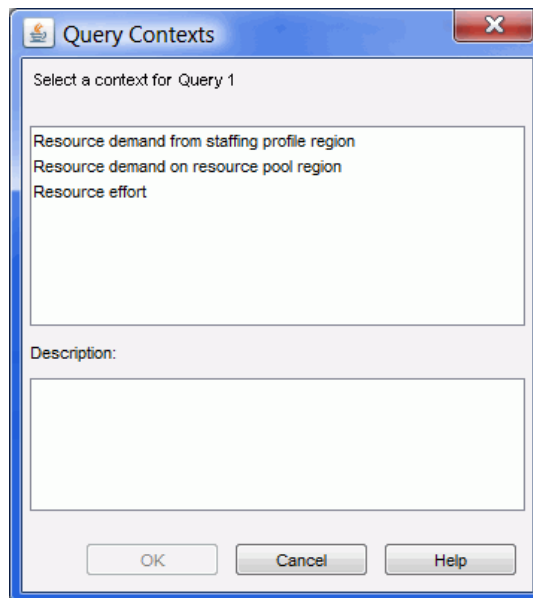
12. [Resources] クラスフォルダを展開し、[Resource Name] オブジェクトを [Result Objects] セクションにドラッグします。

13. [Roles] クラスフォルダを展開し、[Role Name] オブジェクトを [Result Objects] セクションにドラッグします。



14. [Run Query] をクリックします。

[Query Contexts] ダイアログが表示されます。



15. この例のように、アドホックレポートクエリを作成するために選択したオブジェクトのセットが複数の結合パスを通じて取得可能な場合、InfoViewでは、クエリのコンテキストを選択するよう求められます(コンテキストによって結合パスが定義されます)。一覧されたコンテキストからレポート用にいずれか1つを選択し、[OK] をクリックします。



リストのコンテキストがレポート結果にどのように影響するかを判断するには、コンテキスト名をクリックし、[Description] ボックスに表示される内容を確認します。

[Prompts] ダイアログが表示されます。

16. レポートに含めるプロジェクトを指定し、[Run Query] をクリックします。

InfoViewによってレポートが実行され、プロジェクトにアサインされているリソースおよびリソースプールが一覧されます。

17. レポートのタイトルを指定します。
18. ドキュメントに名前を付けて保存します。

リソースプールのすべてのリソース

リソースプールにアサインされているすべてのリソースを一覧する単純なレポートを作成できます。

表 2-6. リソースプールのすべてのリソースを一覧するレポートに含める
RMユニバースオブジェクト

オブジェクト クラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/ プロンプト選択モード
Resources	Resource Name	
Resource Pools	Resource Pool Name	Resource Pool Name

次の条件が成立する場合、リソースプールにアサインされているリソースは、このレポートにのみ表示されます。

- リソースにキャパシティデータが含まれる場合。このレポートのクエリを実行する場合、クエリで使用するコンテキストを選択する必要があります。レポートクエリに「Resource capacity」コンテキストを適用します。

「resource capacity」クエリコンテキスト内では、リソースプール、地域、ロール、組織単位、および会計期間全体にわたるリソースキャパシティデータがレポートに表示されます。「resource capacity」コンテキストでは、リソースプールマネージャの観点に基づいたデータを表示できます。

- リソースの開始日(リソース開始日)および(または)リソースの終了日(リソース終了日)が、レポートスキーマに読み込まれているHP Resource Managementデータの開始日と終了日の間に存在する場合。

プロジェクトのベースラインデマンドとアクティブなスタッフィングプロファイルデマンドの比較

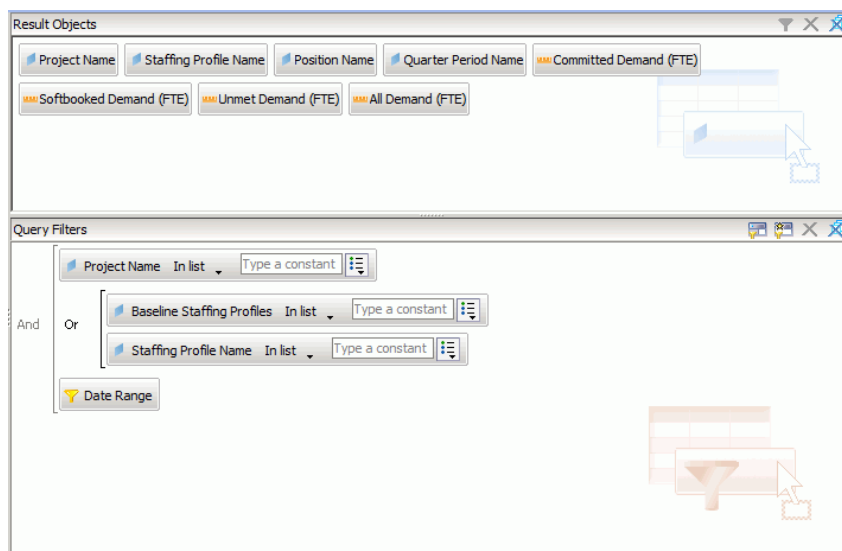
特定のプロジェクトのアクティブなスタッフィングプロファイルとベースラインスタッフィングプロファイルを比較できるレポートを作成できます。表 2-7に、このレポートを作成するためにWeb Intelligenceドキュメントに追加するRMユニバースオブジェクトを示します。

表 2-7. プロジェクトのベースラインデマンドとアクティブなスタッフィングプロファイルデマンドの比較に使用するレポート用のRMユニバースオブジェクト

オブジェクト クラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/ プロンプト選択モード
Project Information	Project Name	Project Name
Staffing Profiles	Staffing Profile Name	Baseline Staffing Profile Staffing Profile Name
Staffing Profiles > Positions (サブクラス)	Position Name	
Fiscal Periods	Quarter Period Name	Date Range/Begin Period、End Period、Time Granularity
Resource Demand > Demand (FTE)	Committed Demand (FTE) Softbooked Demand (FTE) Unmet Demand (FTE) All Demand (FTE)	

図 2-1 のようにクエリフィルタを設定します。

図 2-1. プロジェクトのベースラインデマンドとアクティブなスタッフィング
プロファイルデマンドを比較するアドホックレポートのクエリフィルタ



InfoView でこれらのオブジェクトを Web Intelligence ドキュメントに追加する方法の例については、「[HP Resource Management データに関するアドホックレポートの作成: 例](#)」(28 ページ)を参照してください。



会計年が1月以外の月から始まり、レポートクエリで四半期、半年、または年の時間粒度を指定する場合、開始期間の月がそれぞれその会計四半期、半年、または年で始まっていることを確認してください。この設定を行わないと、無効な結果が返されます。

デマンド、キャパシティ、および実績工数のレポート (プライマリ組織単位ごとにグループ化)

リソースが属するプライマリ組織単位ごとにグループ化された、リソースのデマンド、キャパシティ、および実績工数データを表示するレポートを作成できます。表 2-8に、このレポートの作成に使用するRMユニバースオブジェクトを示します。

表 2-8. プライマリ組織単位ごとにグループ化されたリソースのデマンド、キャパシティ、および実績工数データの表示に使用するレポート用のRMユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/ プロンプト選択モード
Resources	Primary Organization Unit	Primary Organization Unit
Fiscal Periods	Month Period Name	Date Range
Resource Pools	Resource Pool Name	
Staffing Profiles	Staffing Profile Name	Exclude Demand from Baseline Staffing Profile Exclude Obsolete Demand from Proposal
Roles	Role Name	
Resource Capacity > Capacity (Hours) サブクラス	All Capacity (Hours)	
Resource Demand > Demand (Hours) サブクラス	All Demand (Hours)	
Resource Effort	Effort (Hours)	



フィルタ条件で特定のプライマリ組織単位を選択すると、名前なしリソースはどの組織単位にも属していないため、名前なしキャパシティのデータは結果から除外されます。フィルタ条件で特定のプライマリ組織単位を選択しなければ、レポートにはすべての名前なしキャパシティが表示されます。

オブジェクトをWeb Intelligenceドキュメントに追加する方法の例については、「[HP Resource Managementデータに関するアドホックレポートの作成: 例](#)」(28ページ)の手順を参照してください。

合計デマンドとキャパシティの比較 (追加のリソースプールデータ付き)

リソースプールマネージャは、詳細なリソースプール情報付きでリソースプールのデマンドとキャパシティを比較するレポートを作成できます。表 2-9 に、このレポートの作成に使用するRMユニバースオブジェクトと、それらのオブジェクトが存在する [New Web Intelligence Document] ページの場所を示します。

表 2-9. デマンド、キャパシティ、および実績工数に関するレポート
(プライマリ組織単位ごとにグループ化されたデータ付き) に含める
RMユニバースオブジェクト

オブジェクト クラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/ プロンプト選択モード
Resource Pools	Resource Pool Name Resource Pool Managers Parent Resource Pool Parent Resource Pool Name1	Resource Pool Name
Fiscal Periods	Year Period Name	Date Range
Roles	Role Name	
Resources	Resource Name	
Resource Capacity > Capacity (FTE)	All Capacity (FTE) Named Capacity (FTE) Unnamed Capacity (FTE)	
Resource Demand > Demand (FTE)	All Demand (FTE) Unmet Demand (FTE) Committed Demand (FTE) Softbooked Demand (FTE)	

オブジェクトをWeb Intelligence ドキュメントに追加する方法の例については、「[HP Resource Management データに関するアドホックレポートの作成: 例](#)」(28 ページ)の手順を参照してください。

地域ごとのリソースプール

どのリソースプールがどの地域に関連付けられているかを確認できるレポートを作成できます。表 2-10 に、このレポートの作成に使用する RM 派生ユニバースオブジェクトと、それらのオブジェクトが存在する [New Web Intelligence Document] ページの場所を示します。

表 2-10. 地域ごとにグループ化されたリソースプールに関するレポートに含める RMユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/ プロンプト選択モード
Resource Pools	Resource Pool Name Resource Pool Managers	
Regions	Region Name	Region Name/Value(s) from list
Roles	Role Name	

リソースにキャパシティデータが含まれる場合、リソースプールにアサインされているリソースは、このレポートにのみ表示されます。このレポートのクエリを実行し、InfoView によってクエリで使用するコンテキストを選択するよう求められた場合、「Resource capacity」コンテキストを選択してください。



この例のように、アドホックレポートクエリを作成するために選択したオブジェクトのセットが複数の結合パスを通じて取得可能な場合、InfoView では、クエリのコンテキストを選択するよう求められます (コンテキストによって結合パスが定義されます)。

オブジェクトを Web Intelligence ドキュメントに追加する方法の例については、「[HP Resource Management データに関するアドホックレポートの作成: 例](#)」(28 ページ) の手順を参照してください。

リソースカテゴリごとのすべてのリソース

プロジェクトのスタッフィングに使用されるリソースプールおよびリソースを確認できるレポートを作成できます。表 2-11に、このレポートの作成に使用するRMユニバースオブジェクトと、それらのオブジェクトが存在する [New Web Intelligence Document] ページの場所を示します。

表 2-11. どのリソースカテゴリのどのリソースがPPM Centerプロジェクトにアサインされているかに関するレポートに含めるRMユニバースオブジェクト

オブジェクト クラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/ プロンプト選択モード
Resources	Resource Category Primary Organization Unit Resource Name Primary Role	Resource Category/Prompt
Resource Pool Name	Resource Pools	

このレポートクエリを実行すると、レポートのコンテキストを選択するよう求められます。このレポートでは、「**Capacity**」コンテキストを選択します。

HP Resource Management のアドホックレポートを作成および実行する方法の例については、「[HP Resource Management データに関するアドホックレポートの作成: 例](#)」(28 ページ)を参照してください。

スタッフィングプロファイルごとのリソースおよびロールに関するすべてのアサイン (すべての工数を表示)

スタッフィングプロファイルにアサインされているリソース (およびロール)、これらのリソースが記録した工数、および各スタッフィングプロファイルがリソースにリクエストしたデマンドを表示するレポートを作成できます。リソースマネージャまたはプロジェクトマネージャは、このレポートを使用して、リソースが実行した実績工数と、スタッフィングプロファイルが当初リクエストした工数を比較できます。

表 2-12. どのリソースがどのスタッフィングプロファイルにアサインされているかと、リソースが記録した工数に関するレポートに含めるRMユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ
Staffing Profiles	Staffing Profile Name	
Resources	Resource Name User Name	
Resource Demand > Demand (Hours)	All Demand	Exclude Obsolete Demand from Proposal
Resource Effort	Effort (Hours)	
Fiscal Periods	<Period> Name	Date Range
Roles	Role Name	
Project Information	Project Name	
Request Information	Source Entity Type Request ID	

このレポートは、リソースが記録した実績工数のみを表示するように変更できます。ただし、そのように変更する場合、クエリにデマンド情報が含まれないと、クエリに指定した期間内に時間を記録しなかったリソースは、レポート結果から除外されることに注意してください。つまり、スタッフィングプロファイルにアサインされているリソースのすべてを表示することはできません。

実績工数は、プロジェクトまたは (スタッフィングプロファイルに関連付けられた) HP Portfolio Management リクエストに対して時間が記録されている場合にのみスタッフィングプロファイルレベルに関連付けられますが、ポジションレベルには関連付けられません。つまり、アドホッククエリを実行する場合、実績工数はスタッフィングプロファイル属性にのみ関連付けることが可能で、ポジション属性には関連付けることができません。

リソースのスタッフィングプロファイルの詳細

リソースのスタッフィングプロファイルの詳細を表示するレポートを作成できます。このレポートには、リソースが、その開始日と終了日、リクエストされたロール、組織単位、リソースプール、マネージャ、および各リソースが組織内で担当するプライマリロールとともに一覧されます。表 2-13に、このレポートの作成に使用するRMユニバースオブジェクトと、それらのオブジェクトが存在する [New Web Intelligence Document] ページの場所を示します。

表 2-13. どのリソースプールのどのリソースがPPM Centerプロジェクトにアサインされているかに関するレポートに含めるRMユニバースオブジェクト

オブジェクト クラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/ プロンプト選択モード
Staffing Profiles	Staffing Profile Name Start Date Finish Date	Staffing Profile Name/Prompt
Roles	Role Name	
Resources	Primary Organization Unit Manager Name Resource Name	
Resource Pools	Resource Pool Name	

このレポートクエリを実行すると、レポートのコンテキストを選択するよう求められます。このレポートでは、「**Resource Demand**」コンテキストを選択します。

オブジェクトを新規 Web Intelligence ドキュメントに追加する方法の詳細については、「[HP Resource Management データに関するアドホックレポートの作成 : 例](#)」(28 ページ)の手順を参照してください。

3 HP Time Managementのレポート

この章では、HP Time ManagementのOperational Reportingについて説明します。また、HPが提供する事前設定済みのTime Sheet Compliance reportと、HP Time Managementデータを対象に作成できるアドホックレポートに関する情報を提供します。

Time Sheet Compliance Report (タイムシートコンプライアンスレポート)

HPでは、Operational ReportingソリューションでHP Time ManagementにTime Sheet Compliance Reportを提供しています。このレポートでは、組織全体にわたり時間入力のコンプライアンスを継続的にモニタし、コンプライアンスに違反している組織単位およびリソースを特定できます。冗長なデータを細かく調べることなく、会社全体の時間コンプライアンスをモニタできます。サマリデータによって、管理チェーン、組織単位、またはリソースプールのコンテキスト内における時間コンプライアンスの概要が提供されます。

タイムシートコンプライアンスレポートには、記録済み、送信済み(または未送信)、定時に承認済み(または未承認)のタイムシートの合計数に加え、指定の期間におけるコンプライアンスのトレンドが表示されます。追加情報が必要な場合は、ドリルダウン機能を使用して、管理チェーン、組織単位、およびリソースプールの各レベルで時間コンプライアンスの詳細を確認できます。

この項では、タイムシートコンプライアンスレポートクエリの必須およびオプションのプロンプトと、表示されるレポート結果について説明します。



HP Time Management データに関してレポートするために新規 Web Intelligence レポートドキュメントを作成する方法の詳細については、「HP Time Management のアドホックレポート」(53 ページ)を参照してください。

タイムシートコンプライアンスレポートクエリの情報

図 3-1 は、タイムシートコンプライアンスレポートの [Prompt] ダイアログを示しています。表 3-1 に、クエリに指定する情報の説明を示します。

図 3-1. タイムシートコンプライアンスレポートの [Prompt] ダイアログ

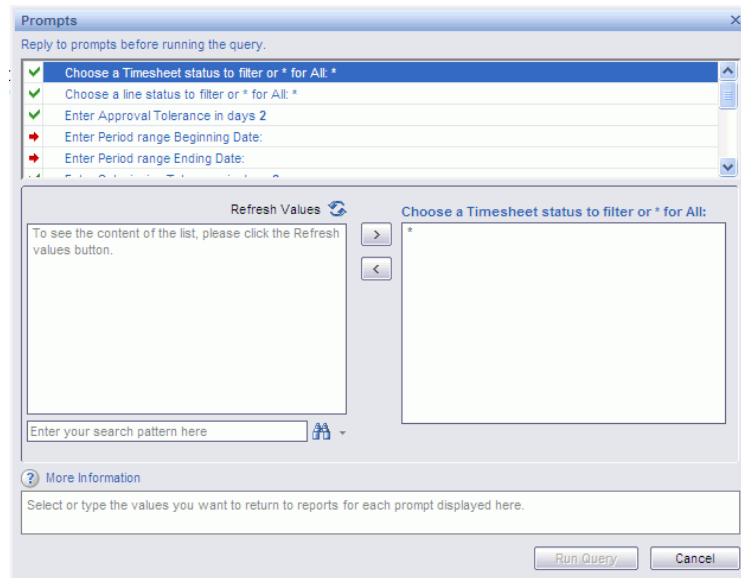


表 3-1. タイムシートコンプライアンスレポートクエリのプロンプト

プロンプト * 必須の値	説明
Period Range Beginning Date	<p>レポートに表示されるデータの日付間隔の開始日を決 定します。</p> <p>期間の終了日が期間範囲の開始日と終了日の間に ある場合、その期間のデータがレポートに含まれ ます。</p>
Period Range Ending Date	<p>レポートに表示されるデータの日付間隔の終了日 を決めます。</p> <p>期間の終了日が期間範囲の開始日と終了日の間に ある場合、その期間のデータがレポートに含まれ ます。</p>
Time Sheet Line Status(es)	<p>レポートに、明細ステータスとは関係なくすべての タイムシート明細のデータを表示するか、特定の ステータスを持つタイムシート明細のデータのみ を表示するかを決定します。</p> <p>次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● * (デフォルト) ● Unsubmitted ● Submitted ● Approved ● Rejected ● Frozen ● Closed

表 3-1. タイムシートコンプライアンスレポートクエリのプロンプト

プロンプト * 必須の値	説明
Time Sheet Status(es)	<p>レポートに、明細ステータスとは関係なくすべてのタイムシートのデータを表示するか、特定のステータスを持つタイムシートのデータのみを表示するかを決定します。</p> <p>次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● * (デフォルト) ● Unsubmitted ● Pending Approval ● In Rework ● Approved ● Frozen ● Closed ● Missing <p>注: [Missing] は、運用レポートにおいてPPM Centerタイムシートの有効なステータスではありませんが、これは割り当てられたステータスのないタイムシートを表します。</p>
* Tolerance for Approval (days)	<p>期間の終了日からの経過日数であり、この日数の経過後はタイムシートをコンプライアンス準拠として承認できません。</p>
* Tolerance for Submission (days)	<p>期間の終了日からの経過日数であり、この日数の経過後はタイムシートをコンプライアンス準拠として送信できません。</p>
* Top Org Unit	<p>選択された組織単位に基づいてレポートデータをフィルタします。レポートでは、階層内でこの組織単位より下位のすべてのデータが返されます。</p>
Request Type Name(s)	<p>(オプション) 1つまたは複数の選択されたリクエストタイプに基づいてレポートデータをフィルタします。</p>
Project Name(s)	<p>(オプション) 1つまたは複数の選択されたプロジェクトに基づいてレポートデータをフィルタします。</p>
Location Code(s)	<p>(オプション) 1つまたは複数の選択された場所に基づいてレポートデータをフィルタします。</p>

表 3-1. タイムシートコンプライアンスレポートクエリのプロンプト

プロンプト * 必須の値	説明
Resource Category(s)	(オプション) 1つまたは複数の選択されたリソースカテゴリに基づいてレポートデータをフィルタします。
Department(s)	(オプション) 1つまたは複数の選択された部署に基づいてレポートデータをフィルタします。
Company(s)	(オプション) 1つまたは複数の選択された会社に基づいてレポートデータをフィルタします。
Charge Code(s)	(オプション) 選択された手数料コードに基づいてレポートデータをフィルタします。



Time Sheet Compliance Reportには、リソースが現在属しているリソースプールのタイムシートが含まれます。これは、タイムシートが今後または過去の期間を対象としており、リソースがその期間において異なるリソースプールに関連付けられている場合でも同様です。

Time Sheet Compliance Reportの結果

以下の項では、さまざまなレポートタブに表示される Time Sheet Compliance Reportの結果について説明します。



以前にパフォーマンスを向上する目的で監査イベントテーブルからタイムシートデータを削除した場合、そのデータはレポートで使用できず、Time Sheet Compliance Reportの結果にも含まれません。

[Direct Manager] タブ

[**Direct Manager**] タブには、マネージャ階層とリソースカテゴリごとにグループ化された送信および承認コンプライアンスデータが表示されます。レポートのマネージャ階層は、最上位から3つ下のレベルまで表示されます。レポートの生成に使用されるクエリには、最大10の階層レベルが含まれます。これは、必要に応じてデータをフィルタする場合に役立ちます。

表 3-2に、Time Sheet Compliance Reportの [**Direct Manager**] タブに表示される列の説明を示します。

表 3-2. Time Sheet Compliance Reportの [Direct Manager] タブの列

列見出し	説明
Manager Hierarchy - Level 1	管理階層の最上位レベルマネージャ
Manager Hierarchy - Level 2	管理階層の最上位から2番目のレベルのマネージャ
Manager Hierarchy - Level 3	管理階層の最上位から3番目のレベルのマネージャ
Resource - Direct Manager	リソースの直属マネージャまたは最下位レベルマネージャ
Resource - Category	リソースが属するカテゴリ
Time Sheet Compliance - Expected Total Time Sheets	コンプライアンスのために送信する必要のあるタイムシートの数
Submissions - Total	送信されたタイムシートの合計数
Submissions - Compliant	コンプライアンスに準拠した送信済みのタイムシートの合計数

表 3-2. Time Sheet Compliance Reportの [Direct Manager] タブの列

列見出し	説明
Submissions - % Compliance	コンプライアンスに準拠した送信済みのタイムシートの合計パーセント
Approvals - Total	承認された送信済みのタイムシートの合計数
Approvals - Compliant	承認コンプライアンスに準拠したタイムシートの合計数
Approvals - % Compliance	承認コンプライアンスのパーセント

特定のリソースマネージャの詳細情報を参照するには、ハイパーリンクが設定されたマネージャ名をクリックしてください。リソース情報レポートが新規Webブラウザウィンドウとして開かれ、そこにマネージャの名前、部署、場所、カテゴリ、会社、ロール名、および直属マネージャが表示されます。

[Org Unit] タブ

[Org Unit] タブには、組織単位階層とリソースカテゴリに基づいてグループ化された送信および承認コンプライアンスデータが表示されます。レポートの組織単位階層は、最上位から3つ下のレベルまで表示されます。レポートの生成に使用されるクエリには、最大10の階層レベルが含まれます。これは、必要に応じてデータをフィルタする場合に役立ちます。

表 3-3 に、Time Sheet Compliance Report の [Org Unit] タブに表示される列の説明を示します。

表 3-3. Time sheet Compliance Report の [Org Unit] タブの列

列見出し	説明
Org Unit Hierarchy - Level 1	組織単位階層の最上位の組織単位
Org Unit Hierarchy - Level 2	組織単位階層の最上位から2番目の組織単位
Org Unit Hierarchy - Level 3	組織単位階層の最上位から3番目の組織単位
Resource - Direct Manager	リソースの直属マネージャまたは最下位レベルマネージャ
Resource - Category	リソースが属するカテゴリ
Time Sheet Compliance - Expected Total Time Sheets	コンプライアンスのために送信する必要のあるタイムシートの数
Submissions - Total	送信されたタイムシートの合計数
Submissions - Compliant	コンプライアンスに準拠した送信済みのタイムシートの合計数
Submissions - % Compliance	送信コンプライアンスのパーセント
Approvals - Total	承認されたタイムシートの合計数
Approvals - Compliant	承認コンプライアンスに準拠したタイムシートの合計数
Approvals - % Compliance	承認コンプライアンスのパーセント

[Org Unit] タブには、組織単位と、各組織単位の3つのレベルのグループ合計が管理階層の最上位から表示されます。特定の組織単位の詳細情報を参照するには、ハイパーリンクが設定された組織単位名をクリックしてください。組織単位情報レポートが新規 Web ブラウザウィンドウとして開かれ、そこに組

織単位の名前、部署、場所、カテゴリ、および組織単位マネージャのIDが表示されます。

[Resource Pool] タブ

[Resource Pool] タブには、リソースプール階層に基づいてグループ化された送信および承認コンプライアンスデータが表示されます。レポートのリソースプール階層は、最上位から3つ下のレベルまで表示されます。レポートの生成に使用されるクエリには、最大10の階層レベルが含まれます。これは、必要に応じてデータをフィルタする場合に役立ちます。

表 3-4に、Time Sheet Compliance Reportの [Resource Pool] タブに表示される列の説明を示します。

表 3-4. Time Sheet Compliance Reportの [Resource Pool] タブの列

列見出し	説明
Resource Pool Hierarchy - Level 1	リソースプール階層の最上位のリソースプール
Resource Pool Hierarchy - Level 2	リソースプール階層の最上位から2番目のリソースプール
Resource Pool Hierarchy - Level 3	リソースプール階層の最上位から3番目のリソースプール
Resource - Resource Pool	リソースが属するリソースプール
Resource - Category	リソースが属するカテゴリ
Time Sheet Compliance - Expected Total Time Sheets	コンプライアンスのために送信する必要のあるタイムシートの数
Submissions - Total	送信されたタイムシートの合計数
Submissions - Compliant	コンプライアンスに準拠した送信済みのタイムシートの合計数
Submissions - % Compliance	送信コンプライアンスのパーセント

表 3-4. Time Sheet Compliance Reportの [Resource Pool] タブの列

列見出し	説明
Approvals - Total	承認されたタイムシートの合計数
Approvals - Compliant	承認コンプライアンスに準拠したタイムシートの合計数
Approvals - % Compliance	承認コンプライアンスのパーセント

リソースのマネージャに関する追加情報を含むレポートを参照するには、ハイパーリンクが設定されたマネージャ名をクリックしてください。リソース情報レポートが新規ブラウザウィンドウとして開かれ、そこにマネージャの名前、リソースカテゴリ、場所、部署、会社、直属マネージャ、ロール、および電子メールアドレスが表示されます。

複数のリソースプールに属しているリソースのタイムシートは、リソースプールごとにカウントされます。



Time Sheet Compliance Reportには、リソースが現在属しているリソースプールのタイムシートが含まれます。これは、タイムシートが今後または過去の期間を対象としており、リソースがその期間において異なるリソースプールに関連付けられている場合でも同様です。その結果、Time Sheet Compliance Reportから一部のリソースプールが除外される可能性があります。たとえば、リソースが過去に異なるリソースプールにアサインされていた場合、そのリソースプールはTime Sheet Compliance Reportに含まれません。

HP Time Managementのアドホックレポート

以下の項では、HP Time Managementを対象に作成できる運用レポートについて説明し、それらのレポートのいくつかを作成する方法の例を示します。また、以下の項には、レポートで使用できるコンテキストに関する情報と、運用レポートクエリでのPPM Centerユニバースオブジェクトの使用方法に関するガイドも含まれます。

HP Time Managementのアドホックレポートのコンテキスト

HP Resource Managementのアドホックレポートを作成する場合、InfoViewによってレポートクエリのコンテキストを選択するよう求められることがあります。コンテキストは、複数のディメンションおよびファクトに関連する一意のクエリパスを作成するための、明確に定義された結合のセットで構成されます。

ディメンションの共通セットにレポートユニバースの複数のファクトおよびメジャーが関連している場合、複数のファクトと関連ディメンション間の結合は、ループに陥ります。ファクトおよび関連ディメンションごとに個別のコンテキストを指定することで、ループを排除し、共通ディメンションのセット全体で複数のファクトをクエリできます。

Operational Reportingでは、HP Time Managementデータを対象に作成されるアドホックレポートに次のコンテキストが提供されます。

- 「Time Sheet Compliance」コンテキスト

「Time Sheet Compliance」コンテキストでは、Required Time Sheets、Compliant Submissions、Compliant Approvals、Total Submissions、Total Approvals、Submission Percent、Approval Percentなどのコンプライアンスメジャーをクエリできます。このコンテキストでは、リソースプールがコンプライアンスメジャーのリソーステーブルを通じて結合されます。

▶ 欠落したタイムシートには実績が存在しないため、リソースプールは、コンプライアンスメジャーのリソーステーブルを通じて結合されます。リソースプールの正しいコンプライアンスメジャーを取得するため、リソーステーブルとの結合が使用されます。

- 「Time Sheet Actuals」 コンテキスト

「Time Sheet Actuals」 コンテキストでは、Total EffortやTotal Costなどの実績メジャーをクエリできます。このコンテキストでは、リソースプールがタイムシート実績の実績ファクトテーブルと直接結合されます。

HP Time Management データに関するレポートのベストプラクティス

この項では、HP Time Management データを対象に作成するアドホック運用レポートで最適な結果を得るための推奨事項について説明します。

複数の作業項目タイプに関するレポート

Time Sheet Lines クラスの単一の作業項目タイプオブジェクト (Project、Request、Miscellaneous オブジェクトなど) が含まれるレポートを生成する場合、レポート結果にはその特定の作業項目タイプの数値のみが含まれます。複数の特定の作業項目タイプオブジェクトが含まれるレポートを生成すると、データは返されません。たとえば、Project オブジェクトと Request オブジェクトの両方が含まれるレポートを作成および実行する場合、タイムシート明細では両方のタイプの作業項目に対して時間が記録されないため、データは返されません。異なる作業項目タイプの結果を参照するには、Project、Request、Miscellaneous などの個別オブジェクトの代わりに、Work Item Type や Work Item Type Name オブジェクトを使用する必要があります。

メジャーを要約した結果の不正確なデータ表示の回避

TM 派生ユニバースのメジャーは、タイムシートレベルで定義されます。つまり、タイムシート明細レベルのデータを表示するレポートを作成し、その後、(レポートクエリからではなく) レポート表示からタイムシート明細の属性を削除すると、BusinessObjects ではメジャーが要約 (縮小) されます。

メジャーの要約の結果、不正確なレポートが生成され、クエリで指定されたデータとは異なるデータが表示されます。このような状況でレポートを作成するには、表示に必要なない属性を列選択から削除し、クエリでそれらの属性が使用されないようにしてください。

コンプライアンスメジャーに関するレポート

会計期間のコンプライアンスメジャーに関しては、レポートできません。コンプライアンスメジャーは、HP Time Management の期間でのみサポートされます。

ルールおよび地域

ルールと地域は、両方とも HP Time Management のどのメジャーでもサポートされません。

値およびパーセントの集計

パーセントは集計できないため、集計機能は、**Submission Percent** および **Approval Percent** メジャーには適用されません。クエリに **Submission Percent** および **Approval Percent** オブジェクトを含めると、**BusinessObjects** では、より上位レベルの値がレポートで集計されません。たとえば、組織、マネージャ、および送信パーセントをクエリすると、組織レベルでは集計コンプライアンスパーセントが表示されません。異なるレベルの集計値を表示する場合、**Compliant Submissions** および **Required Timesheets** オブジェクトを使用し、レポートでパーセントを計算する必要があります (この使用方法の詳細については、HP 提供による **Time Sheet Compliance Report** を参照してください。)

フィルタを使用したレポート出力の制限

BusinessObjects では固定数の行のみが分析されるため (デフォルトは5000)、必ず適切なフィルタを使用してレポート出力を制限してください。

ポジションのルールとそのポジションにアサインされたリソースのルールの比較

ポジションのルールと、そのポジションにアサインされたリソースの実際のルールを比較するクエリを作成する場合、次の操作を実行する必要があります。

- ポジションのルールの **Role Name** オブジェクト (**Roles** クラス) を選択します。
- リソースのルールの **Primary Role** オブジェクト (**Resources** クラス) を選択します。
- 「**Resource Demand from Staffing Pool Region**」コンテキストまたは「**Resource Demand on Resource Pool Region**」コンテキストを選択します。

大規模データベースに対するクエリ

デフォルトでは、クエリは実行後10分でタイムアウトします。大容量のデータを取得するクエリフィルタを選択した場合、そのクエリはタイムアウトし、レポート結果が返されない可能性があります。この問題の発生を回避するには、次のいずれか1つ、または両方を実行します。

- [Universe Parameters] ダイアログの [Controls] タブで、実行時間の制限値を増やすようにユニバースパラメータを変更します。
- より小規模なデータセットを取得するようにクエリフィルタを変更します。

HP Time Managementのアドホックレポートの作成

PPM Centerに付属するTM派生ユニバースには、HP Time Managementデータを対象にユーザが独自の運用レポートを作成できるクラスとオブジェクトが含まれます。以下に示すのは、HP Time Managementデータを対象に作成できるアドホックレポートのごく一部です。

- 「未済タイムシート」
- 「遅延タイムシート送信のトレンド」
- 「タイムシート処理のトレンド」
- 「プロジェクトに記録された請求可能時間のトラッキング」
- 「リソースの進行中作業」



以前にパフォーマンスを向上する目的で監査イベントテーブルからタイムシートデータを削除した場合、そのデータはレポートで使用できず、HP Time Managementデータに関するアドホックレポートにも含まれません。

HP Time Managementデータに関するアドホックレポートの例

この項では、HP Time Managementデータに関するレポートのクエリを作成するための詳細な手順について説明します。

未済タイムシート

タイムシートを送信していないリソースを知る必要のある製品マネージャは、どのリソースが、どのプロジェクトマネージャに対して作業しており、所定の期間にタイムシートを送信していないかを確認できるレポートを作成できます。この単純なテーブル形式のレポートには、所定の時間範囲における期間ごとの遅延送信の数が表示されます。日付は、リソースのマネージャの名前に基づいてグループ化されます。



次の例では、このレポートクエリを作成および実行するのに必要な基本手順について説明します。Web Intelligenceドキュメントの作成方法の詳細については、『BusinessObjects Enterprise InfoView User's Guide』を参照してください。

現在の期間でタイムシートをまだ記録していないリソースを表示するレポートを作成するには、次の手順を実行します。

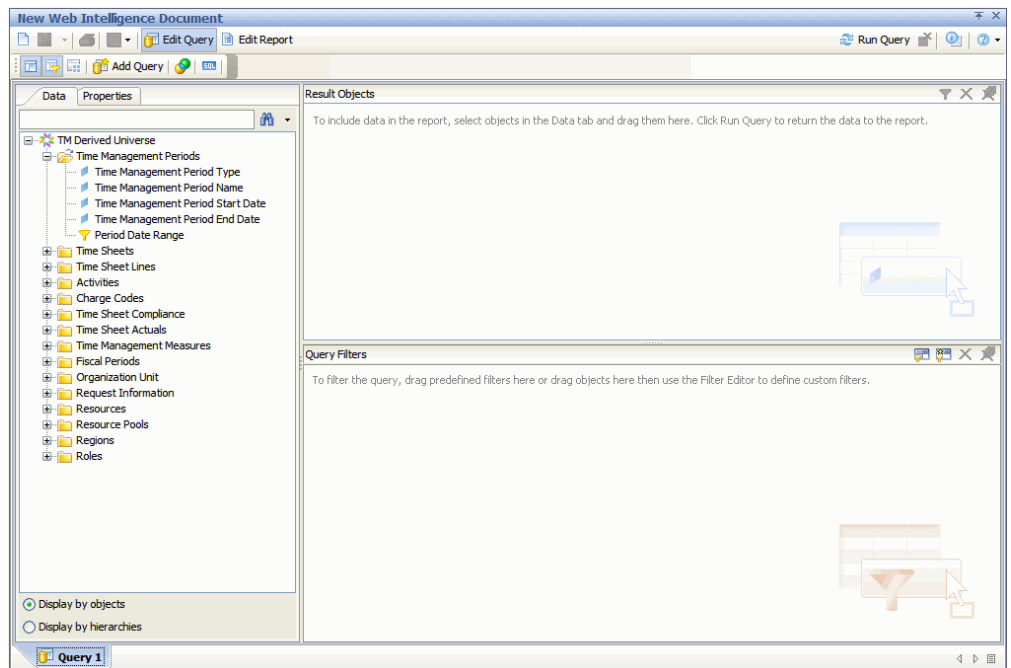
1. Webブラウザのウィンドウを開いて、InfoViewにログオンします。
2. InfoViewのホームページの **[Navigate]** セクションで、**[ドキュメントリスト]** をクリックします。

ドキュメントリストに表示されるフォルダおよびオブジェクトは、ユーザがログオンしたアカウント、BusinessObjects Enterprise管理者によってユーザに付与されている権限、およびユーザとその管理者が有効にしている設定に応じて変化します。

3. **[New]** リストで、**[Web Intelligence Document]** を選択します。

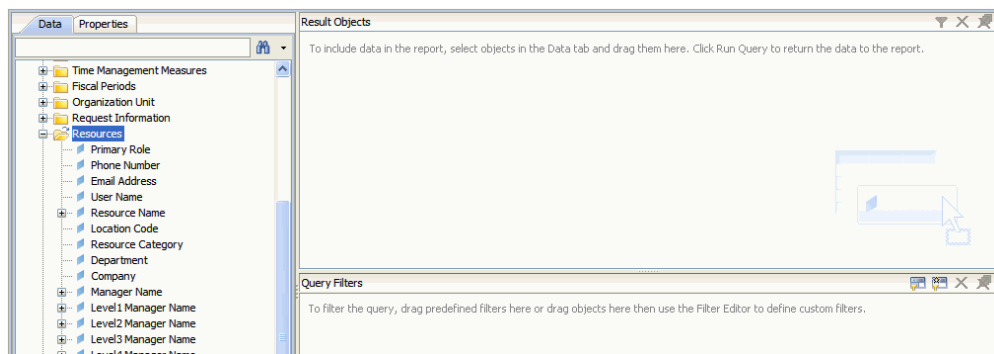
InfoViewに使用可能なユニバースのリストが表示されます。

4. **[TM Derived Universe]** を選択します。

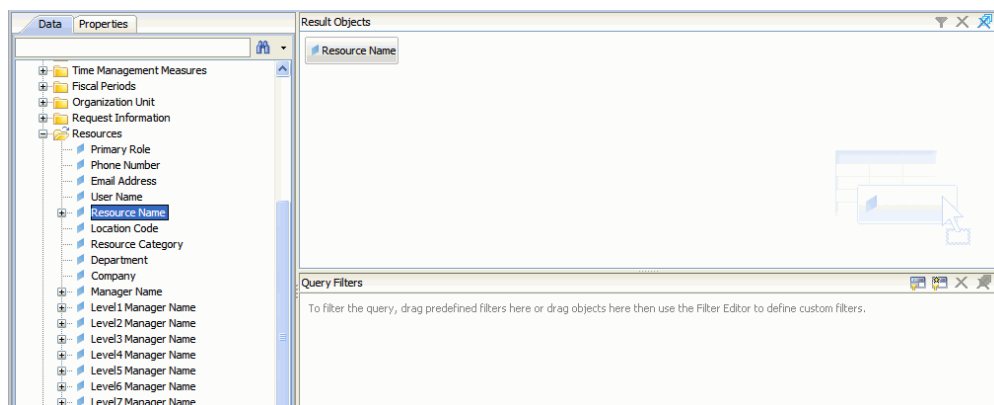


左側のペインの **[Data]** タブに、TM派生ユニバースで使用可能なすべてのクラスおよびオブジェクトが一覧されます。

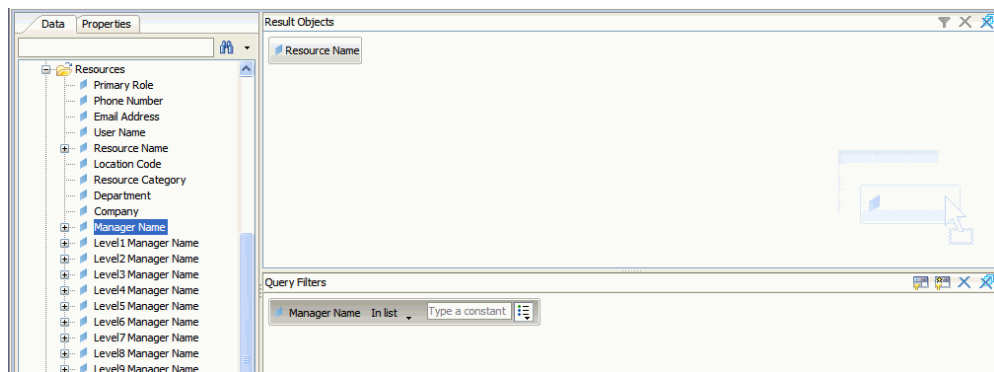
5. [Resources] クラスフォルダを展開します。



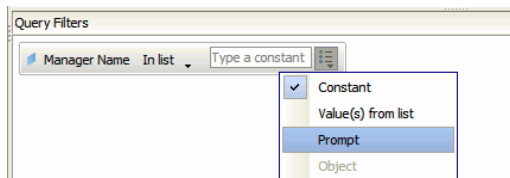
6. [Resource Name] オブジェクトを [Resources] クラスフォルダから右上の [Result Objects] パネルにドラッグします。



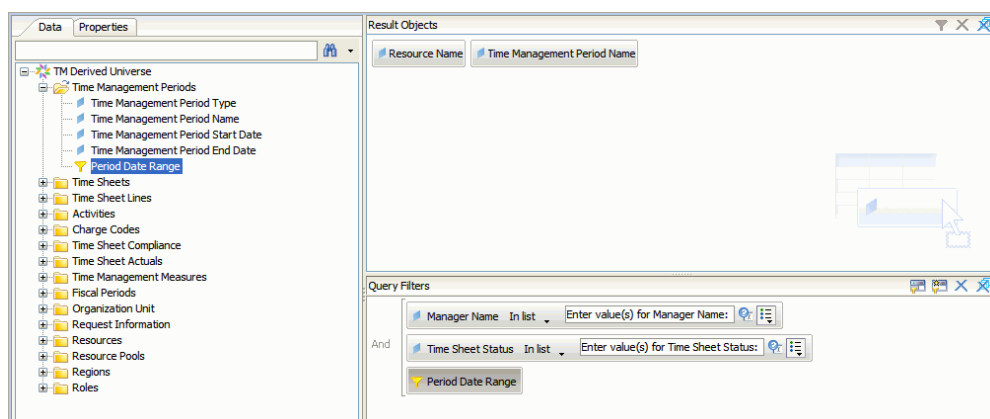
7. [Manager Name] オブジェクトを [Resources] クラスフォルダから右下の [Query Filters] パネルにドラッグします。



8. [Query Filters] パネルで、[Manager Name] ボックスのリストボタン (右端) をクリックし、リストから [Prompt] を選択します。

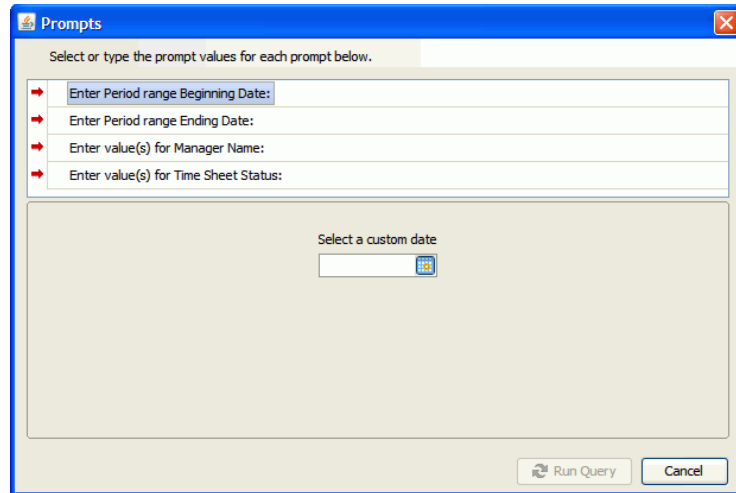


9. [Data] タブ (左側のパネル) で、[Time Sheets] クラスフォルダを展開します。
10. [Time Sheet Status] オブジェクトを [Time Sheet] クラスフォルダから [Query Filters] パネルにドラッグします。
11. [Query Filters] パネルの [Time Sheet Status] ボックスで、リストボタン をクリックし、[Prompt] を選択します。
12. [Data] タブで、[Time Management Periods] フォルダを展開します。
13. [Time Management Period Name] オブジェクトを [Time Management Periods] クラスフォルダから [Result Objects] パネルにドラッグします。
14. [Period Date Range] オブジェクトを [Time Management Periods] クラスフォルダから [Result Objects] パネルにドラッグします。



15. [New Web Intelligence Document] ページの右上の [Run Query] をクリックします。

[Prompts] ダイアログが表示されます。




16. 次のようにレポートの日付範囲を指定します。
 - a. **[Enter Period range Beginning Date]** をクリックし、**[Select a custom date]** 複数選択コントロールを使用してレポートデータの開始日を選択します。
 - b. **[Enter Period range Ending Date]** をクリックし、**[Select a custom date]** 複数選択コントロールを使用してレポートデータの終了日を選択します。
17. 次のように1つまたは複数のマネージャの名前を選択します。
 - a. **[Enter value(s) for Manager Name]** をクリックします。
 - b. **[Manager Name]** リストで、1つまたは複数のマネージャの名前を選択し、右向き矢印をクリックして選択項目を右側のボックスに追加します。
18. **[Enter value(s) for Time Sheet Status]** をクリックし、タイムシートステータスのリストから次の値を選択します。
 - **Unsubmitted**
 - **In Rework**

19. [Prompts] ダイアログの一番下の [Run Query] をクリックします。

InfoViewによってレポートが実行され、リソース名と、そのリソースがまだタイムシートを送信していない期間の名前が一覧されます。

20. レポート結果ページで、[Report Title] をダブルクリックし、有効になったテキストボックスにレポートの名前を入力します。その後、[Enter] を押します。

21. ツールバーの [Save] () をクリックします。

22. ドキュメントに名前を付けて保存します。

HP Time Management データに関する追加のアドホックレポート

以下の項では、HP Time Management の運用レポートを作成するために構築できる追加クエリについて説明します。

遅延タイムシート送信のトレンド

リソースを管理しているユーザと、そのリソースが属するチーム、組織単位、または部署に基づいて遅延タイムシート送信のトレンドを表示できるレポートを作成できます。表 3-5 に、遅延タイムシート送信のトレンドに関するレポートの作成に使用する TM 派生ユニバースオブジェクトを示します。

表 3-5. 遅延タイムシート送信のトレンドに関するレポートに含める TM 派生ユニバースオブジェクト

オブジェクト クラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/ プロンプト選択モード
Time Management Measures	Compliant Submission Submission Percent Total Submissions	
Resources Dimension	User Name Manager Name Primary Org Unit Department	Manager Name/equal to Primary Org Units/equal to Department/equal to
Periods	Period Date Range	Period Date Range

これらのオブジェクトを新規 Web Intelligence ドキュメントに追加する方法の例については、「[HP Time Management データに関するアドホックレポートの例](#)」(58 ページ)を参照してください。

Web Intelligence ドキュメントの作成後、レポートを実行して結果を確認します。このレポートは、実績や期間データなどの追加情報で拡張できます。また、異なる形式で結果を表示するため、リソース名、部署、マネージャ、または組織単位に基づいてデータをグループ化できます。必要なすべてのデータをレポートに含め、適切に編成したら、そのレポートを Excel または PDF 形式で保存できます。

タイムシート処理のトレンド

HP Time Managementを担当するPPM Centerのプロジェクトマネージャは、タイムシート処理のトレンドを検出できるレポートを作成できます。このレポートを設定することで、次の項目間の差異を表示できます。

- タイムシート送信とタイムシート承認 (グループ単位)
- レポート期間の終了とタイムシート承認 (グループ単位)
- タイムシート再作業とタイムシート承認 (グループ単位)
- レポート期間の終了とレポート期間のクローズ (グループ単位)

グループに基づいて、却下されたタイムシート (再作業が必要なタイムシート) の数や、タイムシートを複数回却下されたリソースなどを表示するタイムシート却下レートに関するレポートも作成できます。

TM派生ユニバースオブジェクトを新規Web Intelligenceドキュメントに追加する方法の例については、「[HP Time Management データに関するアドホックレポートの例](#)」(58 ページ)を参照してください。

プロジェクトに記録された請求可能時間のトラッキング

コンサルタントが記録する請求可能時間をモニタする必要がある担当プロジェクトマネージャは、所定の期間にプロジェクトに記録された請求可能時間を表示する、アクティビティコードと手数料コードを含むレポートを作成できます。表 3-6に、プロジェクトの請求可能時間に関するレポートの作成に使用するTM派生ユニバースオブジェクトを示します。

表 3-6. 請求可能時間に関するレポートに含めるTM派生ユニバースオブジェクト

オブジェクト クラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/ プロンプト選択モード
Time Sheet Lines	Work Item Name Work Item Set Name	
Resources	User Name Manager Name	Manager Name/Equal to
Time Management Periods	Time Management Period Name	Which Period Date Range?
Time Sheet Actuals	Total Effort (Hrs)	

生成されるレポートには、リソースが時間および実績工数を記録しているすべての作業項目が表示されます。

TM派生ユニバースオブジェクトを新規Web Intelligenceドキュメントに追加する方法の例については、「[HP Time Management データに関するアドホックレポートの例](#)」(58 ページ)を参照してください。

リソースの進行中作業

直属の部下がそれぞれ現在行っている作業を知る必要のあるリソースマネージャは、指定した期間においてリソースが関与したこと(プロジェクト、リクエスト、休暇など)を表示するレポートを作成できます。表 3-7に、リソースの進行中作業に関するレポートの作成に使用するTM派生ユニバースオブジェクトを示します。

表 3-7. リソースの進行中作業に関するレポートに含める
TM派生ユニバースオブジェクト

オブジェクト クラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/ プロンプト選択モード
Time Sheet Lines	Work Item Name Work Item Set Name	
Resources	User Name Manager Name	Manager Name/Equal to
Time Management Periods	Time Management Period Name	Which Period Date Range?
Time Sheet Actuals	Total Effort (Hrs)	

生成されるレポートには、リソースが時間および実績工数を記録しているすべての作業項目が表示されます。レポートクエリには、リクエストタイプやパッケージなどの追加情報を含めることができます。

HP Time Management レポートのクエリを作成する際に考慮する必要がある問題

この項では、HP Time Management データに関する運用レポートのクエリを作成する際に考慮する必要がある問題について説明します。この項には、HP Time Management に関するレポートで使用される TM 派生ユニバースのクラスおよびオブジェクトに対する複数の参照が含まれます。TM 派生ユニバースとそのコンポーネントの詳細については、

4 HP Financial Managementのレポート

この章では、HP Resource ManagementのOperational Reportingについて説明します。また、HPが提供する事前設定済みのFinancial Summary Reportと、HP Financial Managementデータを対象に作成できる多くのアドホックレポートの一部に関する情報を提供します。

Financial Summary Report (財務サマリレポート)

HPがOperational Reportingに提供する財務サマリレポートを使用して、進行中の工数をモニタし、財務予測のために使用できる情報を生成できます。PPM Centerによって、財務マネージャが今後のシナリオを予測できるポートフォリオシナリオが提供されます。これらのシナリオは、Financial Managementレポートを使用して相互に、および進行中の工数を対象として直接比較できます。

HP PPM Financial Summary Reportには、予算の計画値と実績値の比較が、その予算関連のすべての属性とともに表示されます。予算情報は、地域、ビジネス目標、または予算タイプ(予算が作成されているエンティティ)に基づいてグループ化できます。

予算値は、費用タイプまたは人件費タイプに基づいて分析できます。予算コストは、フィルタ基準に基づいて、PPM Centerシステムで定義された現地通貨またはその他の通貨で表示可能です。

Financial Summary Reportのプロンプト

表 4-1に、財務サマリレポートのプロンプトを示します。

表 4-1. Financial Summary Reportに指定する情報

プロンプト * 必須	説明
Report Begin Period	PPM Centerで設定されているすべての会計期間のリストから、レポートに含めるデータの開始期間を選択します。
*Report End Period	PPM Centerで設定されているすべての会計期間のリストから、レポートに含めるデータの終了期間を選択します。
*Time Granularity	レポートに表示されるデータの時間間隔を決定します。次のいずれかの値を選択します。 <ul style="list-style-type: none">● [Year] は、期間をyyyyとして表示します。● [Half Year] は、期間をh1またはh2/yyyyとして表示します。● [Quarter] は、期間をquarter/yyyyとして表示します。● [Month] は、期間をmm/yyyyとして表示します。● [Week] は、期間をmm/dd/yyyyとして表示します。
*Multiply Factor	係数のリストから、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none">● 1● 1,000● 1,000,000
*Primary Group By	レポートのデータのプライマリグループを決定します。次のいずれかの値を選択します。 <ul style="list-style-type: none">● Region● Financial Summary Type● Business Unit● Business Objective

表 4-1. Financial Summary Reportに指定する情報

プロンプト * 必須	説明
*Secondary Group By	レポートのデータのセカンダリグループカテゴリを決定します。次のいずれかの値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● Expense Type ● Labor Type
*Select Currency Base	リストから次のいずれかを選択して、財務サマリに関連付けられた通貨がPPM Centerのデフォルト通貨(ベース)または現地通貨に基づくように設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● Base ● Local
Enter value(s) for Financial Summary Name	レポートに含める財務サマリを指定するため、HP Financial Managementの財務サマリのリストから名前を選択します。
Enter value(s) for Business Unit	レポートに含めるビジネスユニットを指定するため、HP Financial Managementに設定されているビジネスユニットのリストから名前を選択します。
Enter value(s) for Financial Summary Type	レポートに含める財務サマリタイプを指定するため、財務サマリタイプのリストから次の値を1つまたは複数選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● Project ● Proposal ● Asset ● Org_Unit ● Program
Enter value(s) for Business Objective Name	レポートに含めるビジネス目標を指定するため、HP Financial Managementのビジネス目標のリストから名前を選択します。
Enter value(s) for Region Name	レポートに含める地域を指定するため、PPM Centerに設定されている地域のリストから名前を選択します。

HP Financial Managementのアドホックレポート

PPM Centerに付属するFM派生ユニバースには、HP Financial Managementデータを対象にユーザが独自の運用レポートを作成するのに使用できるクラスとオブジェクトが含まれます。この項では、HP Financial Managementのアドホックレポートで使用可能なコンテキスト、HP Financial Managementデータに関するレポートを作成する際のベストプラクティス、およびHP Financial Managementを対象に作成可能な多くのアドホックレポートのうちの1つについて説明します。

HP Financial Managementのアドホックレポートのコンテキスト

HP Resource Managementのアドホックレポートを作成する場合、InfoViewによってレポートクエリのコンテキストを選択するよう求められることがあります。コンテキストは、複数のディメンションおよびファクトに関連する一意のクエリパスを作成するための、明確に定義された結合のセットで構成されます。

ディメンションの共通セットにレポートユニバースの複数のファクトおよびメジャーが関連している場合、複数のファクトと関連ディメンション間の結合は、ループに陥ります。ファクトおよび関連ディメンションごとに個別のコンテキストを指定することで、ループを排除し、共通ディメンションのセット全体で複数のファクトをクエリできます。

Operational Reportingでは、HP Financial Managementデータを対象に作成されるアドホックレポートに次のコンテキストが提供されます。

- 「FA for Program」 コンテキスト

「FA for Program」コンテキストを使用すると、プログラムの予測および実績データを含むクエリを作成できます。このコンテキストには、提案およびプロジェクトのみを対象とする予測と実績が含まれます（資産は含まれません）。

プログラムの予測および実績データは、月単位で格納されます。「FA for Programs」コンテキストを選択した場合、必ず [Date range] または [Yearly Date Range] フィルタを選択して、所定期間のデータをクエリしてください。

- 「Approved for Programs」 コンテキスト

「Approved for Programs」 コンテキストでは、プログラムの予測コスト、実績コスト、および承認コストを含むレポートクエリを作成できます。提案、プロジェクト、資産、および組織単位の承認コストは含まれません。

プログラムの予測コスト、実績コスト、および承認コストデータは、年単位で格納されます。「Approved for Programs」 コンテキストを選択した場合、必ず [Yearly Date Range] フィルタを選択して、所定期間のデータをクエリしてください。

- 「FA for Proposal/Project/Asset」 コンテキスト

「FA for Proposal/Project/Asset」 コンテキストでは、提案、プロジェクト、および資産の予測と実績を含むレポートクエリを作成できます。プログラムと組織単位の予測および実績データは含まれません。

提案、プロジェクト、資産の予測および実績データは、月単位で格納されます。「FA for Proposal/Project/Asset」 コンテキストを選択した場合、必ず [Date range] または [Yearly Date Range] フィルタを選択して、所定期間のデータをクエリしてください。

- 「Approved for Proposal/Project/Asset」 コンテキスト

「Approved for Proposal/Project/Asset」 コンテキストでは、提案、プロジェクト、および資産の承認コストデータを含むレポートクエリを作成できます。プログラムと組織単位の承認コストデータは含まれません。

提案、プロジェクト、および資産の承認コストデータは、年単位で格納されます。「Approved for Proposal/Project/Asset」 コンテキストを選択した場合、必ず [Yearly Date Range] フィルタを選択して、所定期間のデータをクエリしてください。

- 「Approved for Org Units」 コンテキスト

「Approved for Org Units」 コンテキストでは、組織単位のコスト、実績コスト、および承認コストデータを含むレポートクエリを作成できます。プログラム、提案、プロジェクト、および資産の承認コストデータは含まれません。

組織単位のコスト、実績コスト、および承認コストデータは、年単位で格納されます。「Approved for Org Units」 コンテキストを選択した場合、必ず [Yearly Date Range] フィルタを選択して、所定期間のデータをクエリしてください。

HP Financial Management データに関するレポートのベストプラクティス

この項では、HP Financial Management データを対象に作成するアドホック運用レポートで最適な結果を得るための推奨事項について説明します。

プログラムが複数のビジネス目標を含む場合のビジネス目標ごとのプログラムメジャーのグループ化

たとえば、ビジネス目標ごとにグループ化されたプログラムメジャー (Forecast、Actuals、Approved など) を含むアドホックレポートクエリを作成し、そのクエリ結果に (FM 派生ユニバースの) Business Objectives クラスから 1 つまたは複数のオブジェクトを含めるとします。複数のビジネス目標を含むプログラムに関してレポートすると、生成されるメジャーのデータに、関連するビジネス目標の数が掛けられます。この操作により、正しくないレポートデータが生成されます。

この問題を回避するには、プログラムにおける個別のビジネス目標の数をカウントするレポート変数を作成します。プログラムメジャーを表示する各アドホックレポートセルでこの変数を使用し、セルの合計をその値で割ります (Financial Summary Report では、このメカニズムが使用されます)。

大規模データベースに対するクエリ

デフォルトでは、クエリは実行後 10 分でタイムアウトします。大容量のデータを取得するクエリフィルタを選択した場合、そのクエリはタイムアウトし、レポート結果が返されない可能性があります。この問題の発生を回避するには、次のいずれか 1 つ、または両方を実行します。

- [Universe Parameters] ダイアログの [Controls] タブで、実行時間の制限値を増やすようにユニバースパラメータを変更します。
- より小規模なデータセットを取得するようにクエリフィルタを変更します。

Financial Summary Report での年次粒度の選択

時間粒度として年を選択し、Financial Summary Report を実行する場合、会計年の開始月を開始期間として、会計年の終了月を終了期間として指定する必要があります。このように設定しないと、Forecast および Actuals メジャーの年次値が間違っただけのものになります。

プログラムの財務サマリの無効化

HP Program Management では、プログラムに関連付けられた財務サマリを無効にできます (詳細については、『HP Program Management ユーザーガイド』を参照してください)。HP Financial Management データの通常の増分更新時に、プログラムの財務サマリデータは、レポートデータベースに転送されます。Financial Summary Report の結果には、財務サマリデータは含まれませんが、HP Financial Management のアドホックレポートの結果には、このデータが含まれます。

財務サマリが無効化されているプログラムをフィルタで除外するには、InfoView でレポートクエリを作成する際に次のいずれかの操作を実行します。

- **[Financial Summary: Enabled]** フィルタ (FM 派生ユニバース、Financial Summary クラス) を **[Query Filters]** パネルに追加します。

または、次の手順を実行します。

1. **[Financial Summary Enabled]** オブジェクト (FM 派生ユニバース、Financial Summary クラス) を **[Query Filters]** パネルに追加します。
2. **[Query Filters]** パネルで、**[Financial Summary Enabled]** ボックスのリストボタン (右端) をクリックし、リストから **[Prompt]** を選択します。
3. レポートを実行し、**[Financial Summary Enabled]** の値を求められたら、「**Y**」を入力します。

ポジションのロールとそのポジションにアサインされたリソースのロールの比較

ポジションのロールと、そのポジションにアサインされたリソースの実際のロールを比較するクエリを作成する場合、次の操作を実行する必要があります。

- ポジションのロールの **Role Name** オブジェクト (**Roles** クラス) を選択します。
- リソースのロールの **Primary Role** オブジェクト (**Resource** クラス) を選択します。
- 「Resource Demand from Staffing Pool Region」コンテキストまたは「Resource Demand on Resource Pool Region」コンテキストを選択します。

HP Financial Managementのアドホックレポートの作成: プログラムごとの資産、提案、およびプロジェクト

プログラムマネージャは、プログラムに関連付けられたすべての資産、提案、およびプロジェクトを表示するレポートを作成できます。表 4-2に、このレポートの作成に使用するFMユニバースオブジェクトと、それらのオブジェクトが存在する [New Web Intelligence Document] ページの場所を示します。

表 4-2. プログラムに対応する資産、提案、およびプロジェクトに関するレポートに含めるFMユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/ プロンプト選択モード
Proposals, Projects and Assets (Lifecycle Entities)	Parent Program Name Financial Summary Name Source Entity Type Request ID Request Status Request Type Name Active Workflow Step Name Application Business Objective Name Business Unit Department Entity Asset Class Entity Project Class Entity Region Priority Source Entity Health Source Entity Name Workflow Name	Parent Program Name

表 4-2. プログラムに対応する資産、提案、およびプロジェクトに関する
レポートに含めるFMユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/ プロンプト選択モード
Fiscal Periods	Year Period Name	Date Range
Financial Summary > Approved Budget	Approved Base	
Financial Summary > Forecast & Actuals > Costs	Forecast Base Actual Base	

5 アドホック運用レポートへのカスタマイズされたPPM Centerデータフィールドの追加

本章の概要

この章では、PPM Center フォームに存在するカスタマイズされたユーザデータフィールドを運用レポートに追加する方法について説明します。また、InfoView で作成したレポートを保存および共有する方法についても説明します。

運用レポートへのユーザデータフィールドの追加

この章では、PPM Center フォームに存在するカスタマイズされたユーザデータフィールドを運用レポートに追加する方法について説明します。また、InfoView で作成したレポートを保存および共有する方法についても説明します。

フィールドを追加するには、最初に PPM Center のユーザデータフィールドを表すようにユニバースユーザデータオブジェクトを編集し、次にそのユーザデータフィールドを InfoView でアドホックレポートに追加します。以下の項では、これらのタスクの手順について説明します。



PPM Center ユニバースのユーザデータオブジェクトの詳細については、『Data Model Guide』を参照してください。

ユーザデータフィールドを表すためのユーザデータオブジェクトの編集

PPM Centerに存在するユーザデータフィールドを表すようにユーザデータオブジェクトを編集するには、次の手順を実行します。

1. Universe Designerにログオンし、レポート対象のPPM Centerモジュールに関連付けられたユニバースを開きます。
2. [Universe] パネル (左側のパネル) で、ユーザデータフィールドが定義されている PPM Center エンティティのユーザ設定データオブジェクトが含まれるサブクラスに移動します。
3. PPM Centerのユーザデータフィールドに対応する [Visible User Data] オブジェクトをダブルクリックします。たとえば、ユーザデータフィールドが PPM Centerのリクエストに対して定義されており、そのユーザデータの修飾子が USER_DATA3 である場合、Universe Designerの [Universe] ペインで、[Request User Configured Data] サブクラスに移動し、[Visible User Data3] をダブルクリックします。

[Edit Properties of Visible User Data<N>] ダイアログで、[Definition] タブが表示されます。

4. [Name] ボックスで、既存の値を PPM Centerで定義されているユーザデータフィールドの名前で置き換えます。
5. [OK] をクリックしてファイルを保存します。
6. 運用レポートに含める追加ユーザデータフィールドごとに、手順2から手順4を繰り返します。
7. 次のように、変更したユニバースをBusinessObjectsリポジトリに保存します。
 - a. [File] > [Export] をクリックします。

[Export Universe] ダイアログが表示されます。
 - b. [Domain] ボックスに表示されていないフォルダにユニバースをエクスポートするには、[Browse] をクリックし、別のドメインを検索して選択します。

- c. **[Group]** ボックスで、エクスポートされたユニバースにアクセスする必要のある1つまたは複数のグループを選択します (**[Universes]** リストでは、変更されたユニバースがデフォルトで選択されます)。

Universe Designerに、エクスポート操作を確認するメッセージが表示されます。

これで、ユーザは、InfoViewで変更されたユニバースオブジェクトにアクセスできます。

8. InfoViewにログオンし、ユーザデータフィールドを追加するWeb Intelligenceレポートドキュメントを開きます。
9. **[Prompts]** ダイアログで、必要なプロンプトの値を選択し、**[Run Query]** をクリックします。
10. InfoView ツールバーの **[Edit]** をクリックします。
11. Web Intelligence ツールバーの **[Edit Query]** をクリックします。

[Universe] ペインの **[Data]** タブに、変更およびエクスポートしたユニバースのすべてのオブジェクトが一覧されます。

- a. レポートクエリフィルタとしてユーザデータフィールドのユーザ設定オブジェクトを追加し、プロンプトプロパティを設定するには、次の手順を実行します。
 - b. **[Data]** タブで、オブジェクトを選択して右側の **[Query Filters]** セクションにドラッグアンドドロップします。このオブジェクトは、他のプロンプトとともに **[Prompts]** ダイアログに一覧されます。
 - c. プロンプトのクエリ演算子を変更するには、演算子のリストから任意の演算子を選択します。
 - d. **[Query Filters]** セクションのプロンプトオブジェクトで、**[Prompt properties]** をクリックします。
[Prompt] ダイアログが表示されます。
 - e. プロンプトのプロパティを設定し、**[OK]** をクリックします。
12. レポート結果ページで、レポート内の適切な場所にフィールドをドラッグします。

ユーザデータフィールドを含めるためのアドホックレポートの編集

ユーザデータフィールドを含めるためにアドホックレポートを編集するには、次の手順を実行します。

1. InfoViewにログオンし、レポートのWeb Intelligence ドキュメントを開きます。
2. スタッフィングプロファイル明細のユーザデータフィールド用の新規フィルタを追加し、レポートクエリに含めます。
3. スタッフィングプロファイル明細のユーザデータフィールド用の新規表示列を追加し、レポートに含めます。
4. スタッフィングプロファイル明細のユーザデータフィールド用の新規グループ化メカニズムを追加し、レポートに含めます。
5. リソースプールのユーザデータフィールド用の新規フィルタを追加し、レポートクエリに含めます。
6. リソースプールのユーザデータフィールド用の新規表示列を追加し、レポートに含めます。
7. リソースプールのユーザデータフィールド用の新規グループ化メカニズムを追加し、レポートに含めます。
8. レポートクエリを実行します。

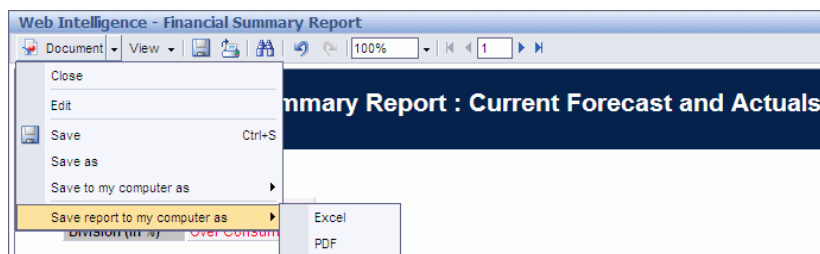
運用レポートの保存および共有

レポート閲覧者がInfoViewを使用している場合、運用レポートを公開ドキュメントとして保存し、利害関係者に直接送信できます。また、指定した日時に自動的にリフレッシュおよび配布するように、ドキュメントをスケジュールできます。InfoViewを使用していない閲覧者とレポートを共有する場合、受取人が表示および印刷できる電子メール添付ファイルとしてMicrosoft Excel、PDF、およびWeb Intelligenceドキュメントの形式でレポートを送信できます。InfoViewでは、次の形式のファイルとしてレポート (Web Intelligenceドキュメント) を保存できます。

- Excelスプレッドシート
- PDFファイル
- CSV (カンマ区切り値) ファイル

レポートの結果をExcelスプレッドシートまたはPDFファイルとしてコンピュータに保存するには、次の手順を実行します。

- [Document] > [Save report to my computer as] を選択し、次に [Excel] または [PDF] を選択します。



Excelスプレッドシートとしてレポートを保存する際の制限事項

BusinessObjects では、独自の内部ライブラリを使用して Excel ドキュメントを生成します (ローカルにインストールされている Excel のバージョンは無関係です)。これらの内部ライブラリでは、行および列に関して Excel 2003 と同じ制限を持つドキュメントが作成されます。エクスポートされたレポート結果の表示に使用する Excel のバージョンにかかわらず、データは失われます。

回避策

Excel スプレッドシートにエクスポートされるレポート結果に適用される制限を回避するには、レポートを .txt 形式で保存してから、そのテキストドキュメントを Excel 2007 にインポートしてください。ただし、この場合、結果のデータはすべて保持されますが、フォーマットは失われます。

索引

A

- 「Approved for Org Units」 コンテキスト, **74**
- 「Approved for Programs」 コンテキスト, **73**
- 「Approved for Proposal/Project/Asset」 コンテキスト, **73**

D

- Demand Vs Capacity Report, **13**
- [Direct Manager] タブ
Time Sheet Compliance Report, **48**

F

- 「FA for Program」 コンテキスト, **72**
- 「FA for Proposal/Project/Asset」 コンテキスト, **73**
- Financial Management
レポート実行のベストプラクティス, **75**
- Financial Summary Report, **69**
プロンプト, **70**

H

- HP Financial Management
サポートされるアドホックレポート, **72**
- HP Resource Management
アドホックレポート, **22, 53, 72**
アドホックレポートの例, **28**

- カスタマイズされた運用レポート, **22, 53, 72**
- サポートされるアドホックレポート, **22**

HP Time Management

- サポートされるアドホックレポート, **53**

HP Time Management レポート

- Time Sheet Compliance Report, **43**

O

- [Org Unit] タブ
Time Sheet Compliance Report, **50**

R

- Resource Management
レポート実行のベストプラクティス, **24**
- [Resource Pool] タブ
Time Sheet Compliance Report, **51**

T

- Time Management
レポート実行のベストプラクティス, **55**
- 「Time Sheet Actuals」 コンテキスト, **54**
- Time Sheet Compliance Report, **43**
 - [Direct Manager] タブ, **48**
 - [Org Unit] タブ, **50**
 - [Resource Pool] タブ, **51**
 - 結果の表示, **48**

コンテキスト, **53**

あ

アドホックレポート

HP Financial Management, **72**

HP Resource Management, **22, 53, 72**

HP Time Management, **53**

う

運用レポート

Financial Summary Report, **69**

か

カスタマイズされたレポート

HP Resource Management データ, **22, 53, 72**

こ

コンテキスト

HP Resource Management でのアドホック
レポート, **22**

HP Time Management でのアドホックレ
ポート, **53, 72**

し

事前設定済みのレポート

Demand Vs Capacity Report, **13**

Time Sheet Compliance Report, **43**

ふ

プロンプト

Financial Summary Report, **70**

へ

ベストプラクティス

HP Financial Management レポート, **75**

HP Resource Management レポート, **24**

HP Time Management レポート, **55**

ゆ

ユーザデータ

レポートへの追加, **79**

れ

レポート

Financial Summary Report, **69**

HP Resource Management

Demand Vs Capacity, **13**

HP 提供によるレポート, **11**

Time Sheet Compliance Report, **43**

ユーザデータフィールドの追加, **79**

